

経営革新計画承認 認定事業

標題; 生体バイオ発電に拠る・創エネルギー革新事業

事業計画書

目 次

1. 背 景 ; 温暖化と資源収支欠損文明の問題点 p 1～3
2. 原 因 ; 電力の資源「赤字」を正す具体的手段 p 3～26
3. 自然との共棲 ; 楽しく無ければ革新では無い p 27～32
4. プラスの経営理念 ; 未来に伝える革新文明 p 33～42



有限会社 プラス化建・工法研究所

福岡県筑紫郡那珂川町片縄東 1 丁目 26 番 5 号

☎ 092-952-2827

Fax 092-952-3826

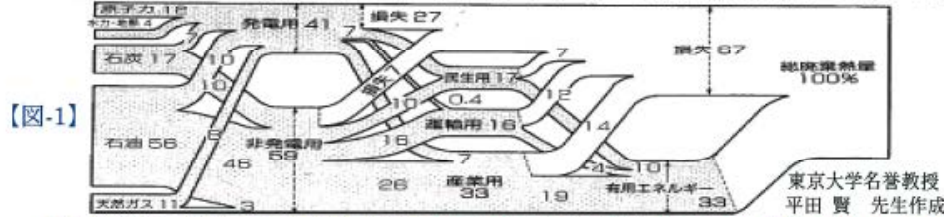
E-mail plus@psbf.jp

URL <http://www.psbj.jp>

直ちに解決すべき
超国家的課題

「温暖化と現代文明の実態」

【図1】は平成9年度「環境庁白書」我が国産業の資源有効利用率の実態である。

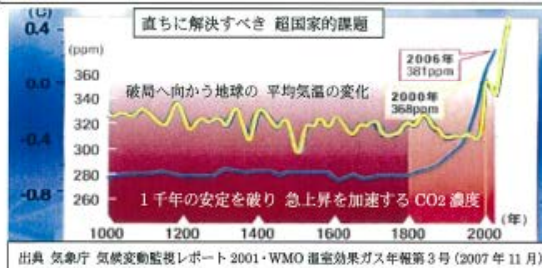


技術先進国を自負する日本の電力産業は66%に及ぶ膨大な資源欠損である。世界の資源収支は更に劣悪と推定される。この原因は、偏在する地下資源と発電・送電の重装備と膨大な資本力依存を要する産業構造に有る。此の電力産業の赤字体質が全産業に感染し、自己努力の及ばない資源枯渇が世界の秩序を排他的覇権に向かわせ、人道は凋落し、破局は避け難い国際情勢である。図1を時代の流れに重ねると地下資源と機械力と資本力に依存し、自己循環して居ない。循環しないエネルギーは蓄積されやがて破壊力と化し暴発します。

エネルギー保存の法則



【図-3】最新の気象庁情報に基ずく温暖化の実態です。人類の存亡に掛けて解決すべき事態です。



自然災害の共通の恐ろしさはストレスが一定の限度に達すると、一気に崩壊へ突き進む事です。20世紀を越えた温暖化グラフの急上昇は、既にこの領域に入ったと考えるべきです。最早一国の利害を争って居る時ではない今こそ世界の指導者達は一致団結し

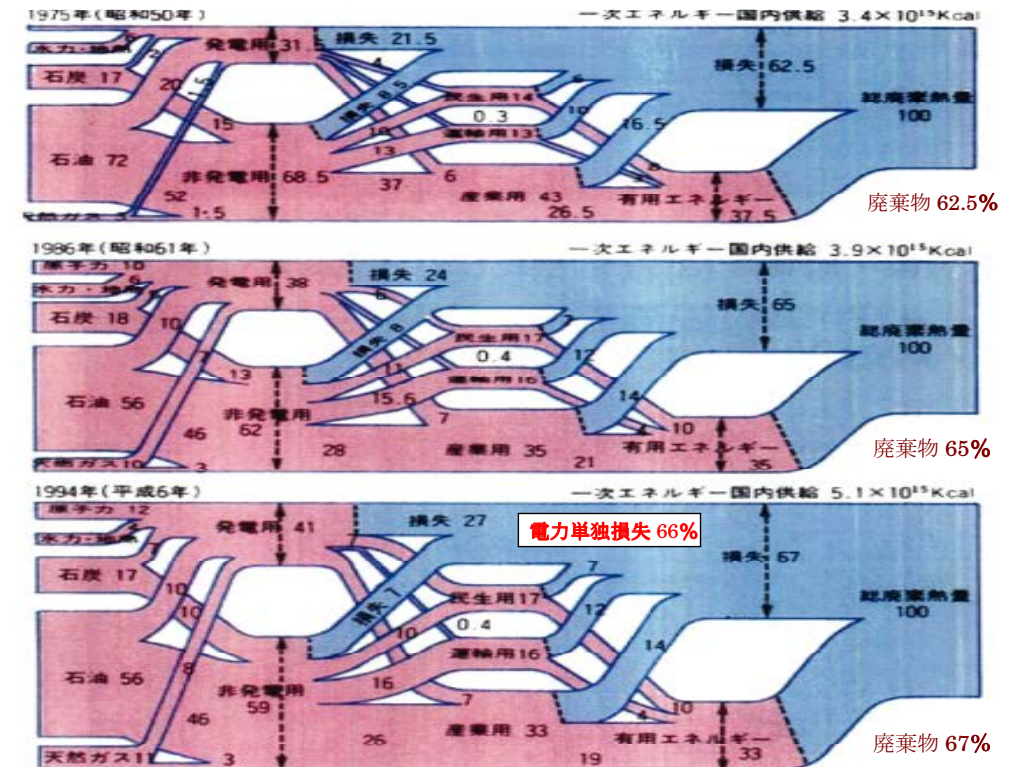
唯一、バイオ発電家屋が是を解決する

国際特許・光合成高効率植栽器「BioX」と生態バイオ発電機「BioDynamoS」を装備した菜園家屋の暮らしに拠れば、其の系で発生するCO2を繰り返し光合成させ系内で循環させて大気へ放出せず、大気濃度を削減しつつ「電力資源を自己増殖する」。バイオ発電は、電力の消費増大に比例し創エネルギー社会を生みます。個々の家屋の発電量と消費電力量を計測し、世界的枠組みの「創資源貢献賞制度」を実施すれば温暖化は制御できます。地球資源の増加は、原発・資源争奪・戦争無用の世界平和を齎します。

自然循環の無いエネルギー依存社会は、経済成長に伴う資源損失で自滅する

技術先進国日本の 膨大な産業資源浪費損失率 67%の 原因

有効利用 33%・資源赤字 67%・自給率僅か 7%の恐るべき資源損失社会
原因は自己循環し無い地下資源依存「電力産業赤字体質感電」世界の平均水準は更に劣悪と推定



平成6年度「環境白書」より・経済拡大と共に自滅する自己崩壊型文明

循環しないエネルギーは蓄積されて破壊力と成る。是が「エネルギー保存の法則」です。我国の平成6年度環境白書フローに拠れば、産業資源の有効利用率は僅かに33%で67%の膨大な資源赤字である。電力産業の単独収支損失66%が、全ての産業社会に感染した事を示して居る。此の流れは18世紀の産業革命に起因し自己循環しない電力産業の地下資源依存は常に深刻な資源争奪を生み300年に亘る歴史は、数回に及ぶ資源争奪の大戦に血塗られた。西暦2006年のCO2の大気濃度と気温の急上昇は、地球の廃棄資源許容力の限界を超えたと観測される。資源争奪の国際緊張は「一触即発」4度目の破滅的危機が迫って居る。此の解決は戦争の悲惨を体験し平和の尊さに目覚め世界の平和を国是とする我が国の責務である。解決の道は唯一無限の太陽熱は95%も捨てられている。バイオマスを用いた、太陽熱活用を於いて他に無い。此れを解決する手段が日・米特許「生態バイオマス高速・高密度・循環増殖発電システム」です。

1; 開発の要旨 資源を増殖する「生態バイオ発電に拠る電力革命」

- ① (日本国特許第 5254536 号) (発明の名称 発電装置)
(特許権者; (有)プラス化建・工法研究所) (発明者; 副島康正)
- ② (米国特許 U.S.PATENT: 8, 950, 111)
名称 (バイオマスに拠る太陽熱と炭酸ガスの固定装置及び同固定装置を備えた家屋)
(特許権者; (有)プラス化建・工法研究所) (発明者; 副島康正)
- ③ (日本国特許第 6125744 号)
名称 (バイオマスに拠る太陽熱と炭酸ガスの固定装置及び同固定装置を備えた家屋)
(特許権者; (有)プラス化建・工法研究所) (発明者; 副島康正)

2、発明の背景

技術先進国を自負する、わが国の平成 6 年度「環境白書」に拠る、現況の電力産業の資源有効利用率は、僅か 34% で、**66% に登る膨大な資源損失**を排出する、**資源赤字産業体質**である。是に引き摺られて、全ての産業社会は 67% に及ぶ**恐るべき資源浪費社会を形成している**。世界の平均資源損失は更に劣悪で、70% を超えると推定される。

此の膨大な資源損失は「CO2 地球温暖化」の自然破壊を引き起こすのみならず、産業革命以来 300 年の長きに亘り、世界の経済資源を食い潰し、その歴史は、第一次・第二次世界大戦を始めとする大小様々な資源争奪の争いに血塗られて来た「**自滅崩壊型文明**」の歴史である。

其の延長である、今日の状況は更に深刻で、利権・争奪が日常的な国家存亡の命題と成り、保護主義・排他覇権主義が台頭し、過ってのキューバ危機を凌ぐ、破滅的核戦争を引き起し兼ねない、**国際的緊張危機の中に在る**。

この原因は、自然循環サイクルをリタイヤし、自己循環力を喪失した、地下資源エネルギー依存の為、膨大な資源赤字を引き起こす、「電力技術」の資源赤字体質に在る。**そもそも、社会の血液「電力」が赤字で在る事は、社会が病的になる必然的原因であり結果関係で在る**。

健全な社会を創る電力の資源収支は自己循環型「黒字電力」で無ければ成らない。

3、考案の内容

特許名称① (発電装置) 「生態バイオマスを用いたエネルギー循環発電」

名称② (バイオマスに拠る太陽熱と炭酸ガスの固定装置及び同固定装置を

備えた家屋) が 是を解決する。

全ての生物は生命維持の為、呼吸に拠りエネルギーを得る。その結果として大量の CO2 の排出を伴うが、これ等は人間を含めて、全て自然循環の範囲内である。

所が人類は何時の頃からか呼吸以外の生活手段として火を用いる術を覚え、其の延長線地下資源燃料依存の火力発電を発明した。

今や好むと好まざるに関わらず電力は、文明社会の血液である。

この電力を創る熱源が、原子力を含む地下資源燃料で、既に自然循環をリタイヤした資源である為、此处から発生する、核 や CO2 を含む各種産業廃棄物は自然循環系に組み込まれず、**「自然と文明を破壊する公害起因物質」と成っている**。

是が地下資源燃料に依存し、膨大な資源損失公害を蔓延させる電力の実態である。

是を解決する手段「生態バイオマス循環発電装置と是を装備した家屋」

原生植物のなかには今でも旺盛な繁殖力を持つ株種が存在する。

例えばバクテリア類は光を要しない暗反応細菌と、光に拠る光合成細菌の二刀流能力を持ち暗闇の中でも太陽光の元でも 30 分に 2 倍の鼠算の速さで増殖する株種が存在し、将来最も有用な資源である。

同じく原生植物の仲間、多くの実用化の実績を持つクロレラは、0.03 mm 程度の単細胞植物である。光の中でも、暗闇でも増殖する、明暗両能力を有し、特定条件下で培養すれば、此の二つの能力を発揮し 9 時間で 4 倍の速さで増殖する。

乾燥したクロレラは 1 kg 4800K ㏔の熱量を有し、此の 1 kg のクロレラを、特定条件下で培養すれば、毎日 24 時間で 10.6 倍に増殖し 50880K ㏔ (59kwh 電力相当) の電力エネルギーを生産し、収穫出来る。

クロレラバイオマスの組成は、(H2) 41%・(CO) 10.4%・(CH4) 6.7%

(CO2) 41.9% である。この植物体を酸素を遮断して燃焼に拠らず、**水プラズマ中で瞬時にガス化すると**上記の一次組成ガスが得られる。CO と CH4 は水と反応して、H2 と CO2 に成り、**シフトして、合計で (H2) 60%・(CO2) 40% の電離したガスが得られる**。水素と炭酸ガスは分子サイズが明らかに異なる為、分離出来る。

精製された水素ガスは既存の燃料電池で、直ちに電力変換する事ができる。

此处で発生する H2、CO2 や水蒸気等のガス体は高温高压の電離ガス体で在る為、「燃料電池」を軸とした「熱電磁流発電」「熱電素子発電」「タービン発電」等の原理の異なる、複合発電が可能と成り、極めて高い効率の発電系が実現出来ます。

分離された CO2 はクロレラ培養塔に誘導され外気に放出せず、温暖化を解消しつつ、繰り返しクロレラと光合成し、電力資源を自給して、資源収支を黒字とする。

4、考案の新規性

水素エネルギー社会は極めて熱効率の高い社会と成ります。然し H2 を燃料ガスとして生活圏内で備蓄流通する事は極めて危険性を伴い多大なインフラコストを要します。植物は最も安全な水素の貯蔵体であり、危険を伴いません。「生態バイオ発電」は作物を発電系内で電離ガス化し直接電力変換する為、**燃料ガスの貯蔵を要しません**。

「CO2」の光合成産物である生態バイオマスを用いた「バイオ発電機構」の目的は CO2 を繰り返し循環させ、大気に放出せず、大気濃度を減少させつつ太陽エネルギーの有効利用率を高め、従来発電の膨大な資源損失とは逆に、バイオ発電電力の消費の増大に比例して、地球資源が増加する「創エネルギー社会を構築する事」にあります。

5、問題解決の確実性と社会貢献度の優秀性

バイオ発電は軽装備で膨大なインフラを要せず、CO2 を発電系内で循環させ大気放出せず、発電の普及が、CO2 の大気濃度を漸減させ、温暖化を解消し、終結させます。

6、製品の実用性

「生態バイオ発電」は発電行為が資源を増殖循環する。企業・工場単位・戸建て住宅単位の自家発電が可能で、各戸の発電を収約すれば様々な有効な対応策が可能となる。是を世界中で実施すれば温暖化は終息し、豊かな社会資源の増幅が、争奪無用の世界平和を齎します。

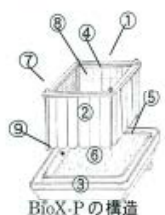
解決手段の全体像 & 具体的商品群 & システムの構成

bio 発電が CO2 を連続光合成させ大気放出せずバイオ資源を増殖し温暖化を阻止する

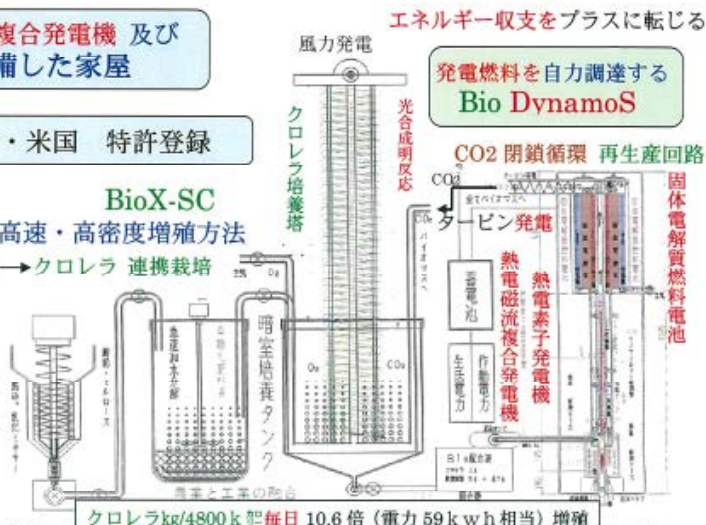
バイオブラスマ複合発電機 及び
同装置を装備した家屋

日本国・米国 特許登録

BioX-P BioX-SC
バイオマス高速・高密度増殖方法
薩摩芋発酵液肥 → クロレラ 連携栽培



BioX-Pの構造
管エネルギー効果
毎日産水 4.5 日 産熱 2425.5 kcal
光合成太陽熱吸収 毎日 150 kcal
日光遮蔽 面積約 44 m² 毎日 9460 kcal
CO2 吸収毎日 63 kg・O2 放出 46 kg



クロレラkg/4800k 毎 10.6 倍 (電力 59kwh 相当) 増殖

グリーンカーテンコンテスト最優秀受賞



クロレラkg/4800k 毎 10.6 倍 (電力 59kwh 相当) 増殖

生命の臨機応変で柔軟な環境対応力は、蛋白質の極めて弱い組織結合力の特性に由来する。會て、地球創成時、CO2 が満ち溢れた太古の暗黒灼熱大気の中で誕生した生命にはやがて、暗黒雲が晴れ強烈に射し込む太陽光は生命を脅かす脅威であった。太陽から身を守る為、一部は動く事で身を守る動物に進化し、一部は大地に根を張り大気に葉を広げ、水と CO2 を取り込み、太陽との光合成能力を獲得して植物に進化し、巨木時代を築き身を守った。更に、自らは動物の餌となり、動物を味方に繁殖の領域を拡大し、見事な「エネルギー収支がプラスに循環する」共存共栄の生命圏を構築した。其の上今日の人類にまで恩恵を及ぼす地下資源となった偉大な生命世界の創造者である。無限の太陽エネルギーを地上に固定する能力を有する者は植物を於いて在りません。その偉大な植物の力は今も健在です。CO2 は削減する物でなく、出来るだけ多くを、太陽エネルギーを取り込む重要資源として植物に還元する事が人類の最重要課題です。

「赤字電力社会は白血病患者」健全な社会の電力は黒字収支を要する

現代文明は 18 世紀の産業革命以来 300 年に亘り、機械技術と地下資源に依存した文明で、目覚ましい発展を遂げた。その中で電力の発明は文明の進歩に大きな役割を果たし今や社会の血液と成って居る。所が技術先進国を自負する日本の電力資源効率は 66% の廃棄物を出す不健全な技術である。

此の電力を用いる、全ての産業が感電し 67% に及ぶ資源損失の不健全な浪費社会と成って居る。急速にグローバル化した世界の資源損失は更に深刻で、膨大な世界的規模の資源浪費が地球の資源を枯渇させ保護主義が台頭し、覇権争奪が国家存亡の命題と成り国際社会は危機存亡の極にある。

排出される CO2 は温暖化ガスとして忌避されて居るが、地球の寒冷化を防止し、生命資源の根幹をなす重要資源である。其の排出量は活発な生命活動の成果である。CO2 は削減すべき物で無く、旺盛な生産活動の結果排出される大量の CO2 は大気に放出せず、太陽熱で繰り返し再光合成させてバイオマスを増産する、重要な資源である。此の役割を果たし得る者は、植物を於いて在りません。

※ 此の解決を可能とする手段が「生態バイオマスを循環する発電技術」で在ります。

日本国・米国特許；「バイオマスに拠る太陽熱と炭酸ガスの固定装置と同装置を備えた家屋」

※「生態バイオマス循環発電法」とは、天性的に旺盛な繁殖力の植物を用い、其の増殖特性を促進し支援する手段を講じて栽培し、収穫した作物を燃料として発電し、其の系で発生する CO2 を繰り返し、循環光合成させて、大気に放出せず、発電系自体が自らの発電燃料を増産し循環自給する発電法です。

※ 例えば、バクテリアの仲間には 30 分で二倍に増殖する、高い光合成エネルギー生産能力を持つ、株種が存在し、将来、最も有望視される「バイオマス発電燃料エネルギー資源」で在ります。

※ 此处では既に良く知られた、実用生産性に実績を有する「クロレラ」を用いて説明致します。クロレラは 30 億年の太古を生き抜き、今でも 9 時間で 4 倍に増殖する、強靱な生命力を持つ原始生命の単細胞植物で在ります。

※ 乾燥クロレラは 1kg 4800k (電力換算 5.5kwh) のエネルギーを有し、十分な炭素含有の培養液を用いれば 9 時間で 4 倍に増殖する 高速度・高エネルギーを生産する作物で在ります。

※ 毎日、1kg の栽培で (電力換算 59kwh) 相当の発電燃料を収穫し分散自家発電が可能と成ます。基本的に、「電力エネルギー技術」の資源収支は、黒字で無ければ、問題解決には成りません。

然も、機械力に拠らず、自然の力を活用し、誰にでも出来る方法で、自己努力の成果が自分で解り、「エネルギー資源を増殖させる具体的成果」が客観的に誰の目にも評価出来る技術で無ければ、問題解決には致りません。植物学のエネルギー通貨 ATP を用いれば数値化する事が出来ます。

※ 薩摩芋は 1kg 当り 1500k を有し、耕地 1m² 当りのエネルギー生産量がお米の 1.7 倍の収穫で一般作物中、面積当たりの収穫、第一位の作物です。この薩摩芋を発酵液肥とし、クロレラ培養液に適量添加する事で 9 時間 4 倍に増殖し、毎日 1kg のクロレラが 10.6 倍 (電力換算 59kwh) が収穫されます。薩摩芋&クロレラ連携「バイオ循環発電法」に拠れば発電系で発生する CO2 を繰り返し光合成させ大気に放出せず、「クロレラ燃料資源」を連続して再生産し発生する CO2 を無限に等し太陽熱と光合成させ「作物として地上に蓄積し」暖化をコントロール可能になると共に、「バイオ発電」が自然と共同して創る「創エネルギー発電社会」の人々の暮らしが軸と成り争奪、紛争無用の、豊かな 循環・創資源の 世界平和を創出します。



特 許

光合成と成育を促進する

抗酸化イオン三接空間ベース

BioX

太陽の貯金箱



BioX の抗酸化イオンが 強い作物を育てる

バイオ資源の増殖が太陽熱を蓄積し豊かな地球と文明を育くむ

バイオ発電が CO2 を繰り返し光合成させ大気に放出せずバイオ資源を増殖し温暖化を阻止する

「BioX」 土壤に活力・光合成率向上

地球資源の増加・「人類繁栄」

薬膳作物栽培で一家団欒 健康家族

健康青汁 ケール

土壤環境を活性化する「BioX」

特許・商標登録

エコ Typ BioX

BioX イオン効果の成果

「BioX」の光合成率向上がエネルギー収支をプラスに転ずる

温暖化対策に CO2 を削減すると言うが、CO2 は太陽光の遠赤外線を大量に吸収する能力を有し、生命の棲める地球の気象環境を構成し、安定させている重要な役割を担う貴重な組成で在ります。更に、光合成により太陽熱を取り込み、作物に換える「生命資源の核心」と成る重要かつ貴重な資源であります。人間を含む全ての生命活動の成果として放出される CO2 は人類は元より全ての生命に、神の与えた資産で在ります。削減したり、閉じ込めるのでは無く、大いに活用して、神の啓示に答えるべき、貴重な資源であります。植物は CO2 を介して太陽熱を資源に換えます。然も植物は生き代わり死に変わり、循環して太陽熱を資源化蓄積致します。此の活用が人類の果せられた任務で在ります。

CO2 の大気量は標準 0.034% の希少ガスであるが、大量の赤外線を吸収する能力を有し、地球の寒冷化を防止しています。CO2 の循環量は生命力資源量で在り、経済活力のバロメーターで有ります。CO2 の絶対量は削減すべきものではなく、バイオ発電で繰返し光合成させリサイクルすれば、大気中の CO2 を持続可能な一定の標準値に管理する事が可能となります。CO2 循環量を増大し作物資源を増殖し、大気の CO2 濃度を管理する事で、人類繁栄の道が開けます。

CO2 の循環を伴わない、現在の地下資源依存のエネルギー技術と文明に、重大な欠陥があります。18 世紀までの大気中の CO2 濃度は 0.034% (280ppm) と安定していた産業革命以後 300 年、の現在 0.040% (400ppm) と 10% を超える急上昇で、温暖化ガスと汚名を着せられ、重大な温暖化災害の犯人とされて居ます。

【もはや過去の責任を論争する時では在りません】これは人間が、自ら招いた人災であると自覚し、人類の尊厳に掛けて CO2 を有効活用循環する技術を確認し、「全人類が、一連托生で解決すべき超国家的課題」であります。

弊社は平成 3 年頃から「生産機能を有する BioX 菜園家屋」による生活の中で、CO2 の有効利用量を増やし家屋内で循環して大気に放出せず、大気の CO2 濃度を低下させ、地球資源を増殖する手段を構想して来た。其の経過の中で考案したのが高密度バイオマス栽培器「BioX」&「バイオ発電装置」であります。

「BioX」とは、① Bio Box (命の玉手箱)、② Bio Base (命の基盤)、③ BioWater (命の泉) ④ BioStage (土壌=命の演舞場) の機能を集約したバイオマス栽培器の 商標登録 名称です。

別名「太陽の貯金箱」とも言います。

1) 地球に降り注ぐ太陽エネルギー量は 年間 $6.5 \times 10^{20} \div 860k \text{ ㏐} (kwh \text{ 電力換算})$ と膨大です。

これを地球の総面積で割ると 1㎡当り 1kw/h 相当の入射熱量と評価されています。

著名な植物学者では植物の光合成能力は 33% とされて居るが、農業者の有効利用は、5% 程度と統計されている。

平成 22 年度、九州工業大学 10 号棟に於いて実施した「BioX」栽培薩摩芋による「屋上緑化・省エネルギー&創エネルギー」の実証実験の結果「BioX」4 器 1㎡125 日当たりの収穫高は 28.2kg (電力換算 49.2kwh 相当) であった。本場鹿児島県の薩摩芋の生産高は 1㎡/3 kg 程度で、是は 9.4 倍に相当する収穫で在る。

世界の年間エネルギー消費総量は原油換算 130 億 t と言われています。世界に降り注ぐ太陽エネルギー光合成率を 1% 向上させると 此の総量を凌駕して余りある熱量と成ります。「BioX」の光合成効率向上とバイオ発電とで、この問題を解決する事が可能と成ります。

※ 自然の生産と消費は表裏一体で行はれる。温暖化阻止の為に CO2 を削減と言うが、削減ではなく、活用すべき資源である。地球温暖化は、欲望の為に経済論理を優先し、生産と消費を分離した人間の浪費社会が引き起した人災である。

2) 平成 25 年「高エネルギーバイオマス集中栽培装置&バイオ燃料に拠る 発電装置」日本特許登録

3) 平成 27 年「バイオマスによる太陽熱と CO2 の固定装置及び同装置を備えた家屋」米国特許登録

4) 平成 29 年「バイオマスによる太陽熱と CO2 の固定装置及び同装置を備えた家屋」日本特許登録

此れの実用化に向け 福岡工業技術センター・九州工業大学協力の下、発電機を試作中であります。

30 億年の太古、暗黒灼熱の中で誕生したクロレラは、光に拠らず増殖する従属栄養「暗反応」と、暗雲が晴れた**太陽光**の脅威に対抗し**光を味方にする「明反応」**を覚え、旺盛な**光合成**、生命力を得た。此の**明暗両能力**を引き出す適正条件下で、今でも9時間に4倍に増殖する生命力を発揮する。「クロレラ」は乾燥重量 **1 kg 4800 kJ**の**熱量**を有し、此の条件下の1 kgの栽培で毎日 10.6 倍に増殖し、**電力換算、約 59kwh 相当のエネルギー**を生産する。此のクロレラを**水プラズマ熱**でガス化すると、水素ガス 41%・一酸化炭素 10.4%・メタン 6.7%の燃料ガスと炭酸ガス 41.9%が得られ、一酸化炭素とメタンは水と反応し、合計で約 60%の H₂ と 40%の CO₂の**電離ガス**に成ります。水素ガスは下図に示す複合発電機で直ちに**電力変換**されます。**機械設備**に発生する保存則 17%の熱損失は、CO₂の**光合成**で再生したクロレラ**エネルギー**が是を補い**エネルギーは常に黒字**となります。CO₂は常時クロレラの再生産に固定され、外気に放出されず、全体の**エネルギー収支は「プラス」**に展開します。

CO₂を連続光合成させて大気に放出せず

太陽熱高率活用でエネルギー収支をプラスに導く

バイオマス複合発電システム

農と工の融合

薩摩芋 → クロレラ連携栽培

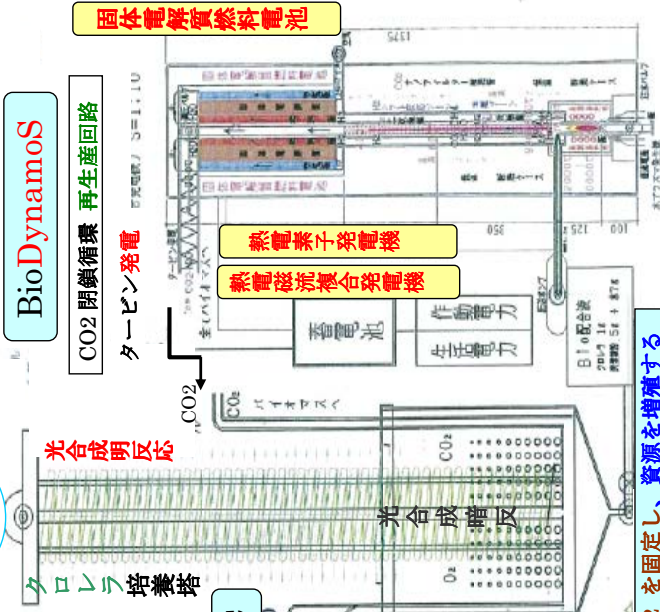
BioX-P & S 連携栽培

BioX-P

一般バイオマス栽培器
薩摩芋栽培

特定バイオマス栽培器
クロレラ培養液肥

BioX-SC



日本国・米国特許登録

BioDynamoS

CO2閉鎖循環再生産回路

タービン発電

CO2発生装置

固体電解質燃料電池

熱電素子発電機

熱電磁流複合発電機

蓄電池

発電機

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

CO2発生装置

バイオ発電システムがCO₂を固定し、資源を増殖する



特 許 証

(CERTIFICATE OF PATENT)

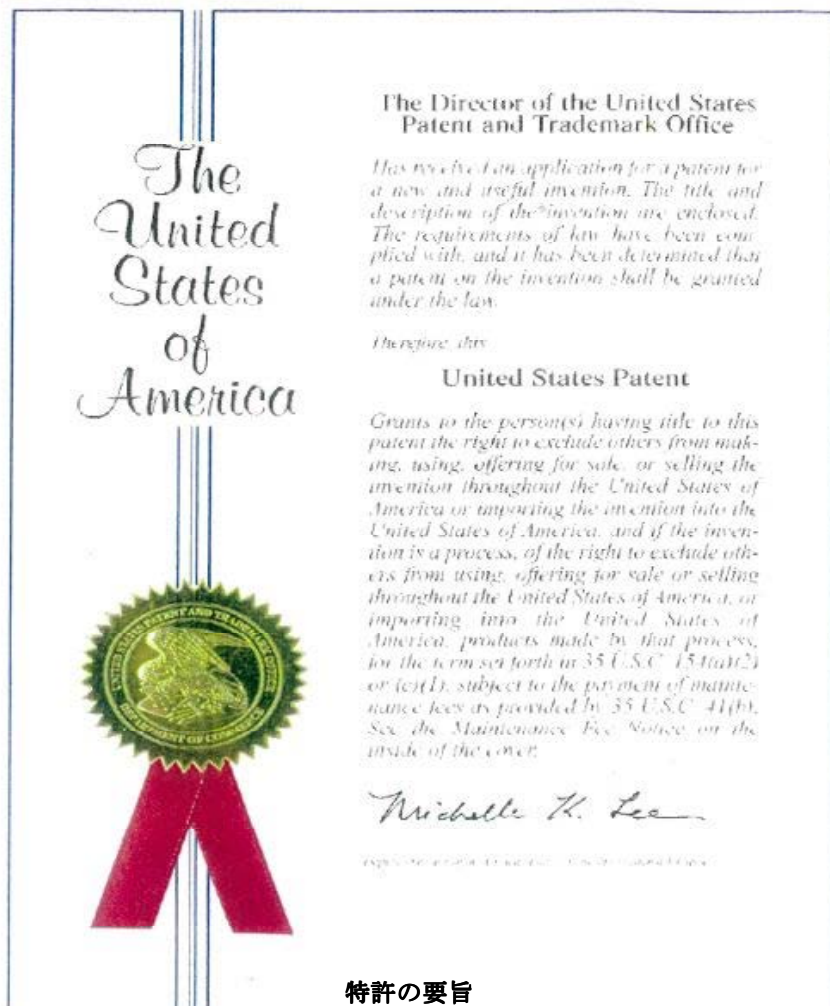
特許第5254563号

(PATENT NUMBER)

発明の名称 (TITLE OF THE INVENTION) 特許権者 (PATENTEE) 発明者 (INVENTOR) 出願番号 (APPLICATION NUMBER) 出願日 (FILING DATE) 登録日 (REGISTRATION DATE) この発明は、特許するものと確定し、特許原簿に登録されたことを証する。 (THIS IS TO CERTIFY THAT THE PATENT IS REGISTERED ON THE REGISTER OF THE JAPAN PATENT OFFICE.) 特許庁長官 (COMMISSIONER, JAPAN PATENT OFFICE)	発電装置 福岡県筑紫郡那珂川町片縄東1丁目26番5号 有限会社プラス化建・工法研究所 代表取締役社長 副島 孝子 副島 康正 特願2007-099807 平成19年 4月 5日(April 5, 2007) 平成25年 4月26日(April 26, 2013) 平成25年 4月26日(April 26, 2013)
---	--

深野弘行





特許の要旨

地球創成期の暗黒で誕生した**原生植物クロレラ**は、暗闇で成長する「**従属栄養**」と、やがて差し込む強烈な太陽光から身を守り、取得したと思われる**光合成「独立栄養」**の生命力を有し、**明暗二つの能力を駆使し** 30 億年を生き抜き、今も尚特定条件下で 9 時間で 4 倍に増殖する、**強靱な生命体**である。**生命現象は全て太陽の電磁波を起点とする「イオン交換作用」**であるが、イオン交換は全て物体の表面で行われる。生命体は、膨大な細胞の袋構造の表面を持つが故に、質量に対し表面積比が圧倒的に多く、活発な生命体活動が持続して行われる。特許「BioX」は、此のイオン交換力の高い素材を数種類選別し、土壌中で相互交換作用を幫助する配置に組み込んだ植栽器である。「BioX-P & S C」はクロレラの**光合成「明反応」と同化作用「暗反応」**を効率よく行うべく構成したクロレラ専用栽培器であります。**1 kg 4800 k 時間のクロレラの栽培で、毎日 59Kwh 相当の発電が可能と成る栽培装備と発電装置搭載した、家屋の特許である。**

米国特許証

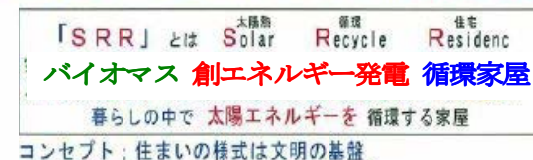
バイオマスに拠る**太陽熱**と**炭酸ガス**の固定装置及び同固定装置を備えた家屋





緑と共棲する 電力革命

家庭菜園バイオマスで発電する「ひまわり」新築モデル



永住世代継承・創エネルギー省資源住宅

1. 建築の構造は社会のインフラ

- ☆ 躯体構造：中央柱主支持・免震バランス・大空間構造
- ☆ 複数世代居住：多様デザイン選択可・移動間仕切り家具・
- ☆ 日曜大工 間仕切り組み替え自在壁・リサイクル内装材
- ☆ 世代共住は全員参加の 思い遣り社会の根本

2. 創エネルギー社会 のコンセプト

- ☆ 太陽エネルギーは1時間1㎡当り 1kwh 降り注ぐ。植物は是を作物に替え、約5%を地球上に固定する。田畑に抛らぬ BioX 家庭菜園で植物を育て、固定率を12%以上にし、エネルギー収支をプラスに換える

3. 生産性を有する家屋の意義

自然の生産と消費は表裏一体で密着循環し無駄を生じない。人間の生活は是を経済効率と思い、分業化して行われている。このギャップが多量の廃棄物と浪費社会を生み、自然を破壊し、地球資源を減少させ、皮肉にも経済活動を歪曲縮小させている。その廃棄物は既に地球の自浄能力を越え自然を破壊し、人類の存在までも脅かしている。「エネルギー生産性を有する家屋」の生活は、CO₂ と太陽熱で植物を介し自家発電する。輸送配電のロスも無く、バイオマスを循環させ、地球資源を増加させる。「我々の生活を守る手帳はこの創エネルギー生活において無い」

4. 失われ掛けた「社会の基盤」家族の絆の再構築

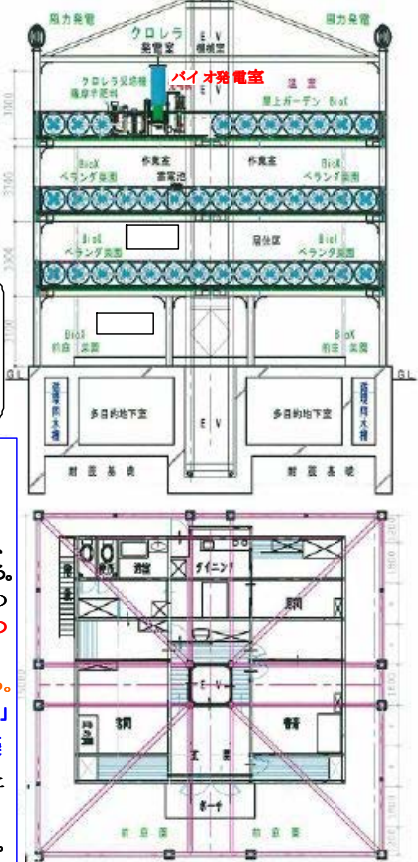
古来から、家屋は生産と消費が同時に行われる場所であった。其処には家族共同体として役割分担と思い遣り規律があり家長を軸に固い絆で結び、社会的モラルの原点を成していた。

家庭園芸・創エネルギー生活は、高齢者に社会参加の機会を延長し
社会負担を軽減し、生き甲斐と活力を与え、社会の総合力を底上げする。

5. お見積 (1) 緑化菜園住宅 新築・既存家屋改築 (ご希望の規模のお見積お受け致します)

6. お見積 (2) バイオ発電装置 九州工業大学協力のもと開発中 (5年度以内発売予定)

バイオマス 複合発電家屋
日本国特許登録 米国特許登録
バイオ発電 菜園家屋
補助発電



我国のエネルギー資源は67%廃棄損失・世界の水準は更に劣悪です。
循環しないエネルギーは蓄積され全て破壊力と化し、危機は目前です

BioDynamoS & SolarRecycle Residenc

バイオ発電家屋の中でCO2を閉鎖循環光合成させて温暖化を阻止

太陽利用効率向上資源増殖

社会資源循環・増幅社会

日本国特許

米国 特許



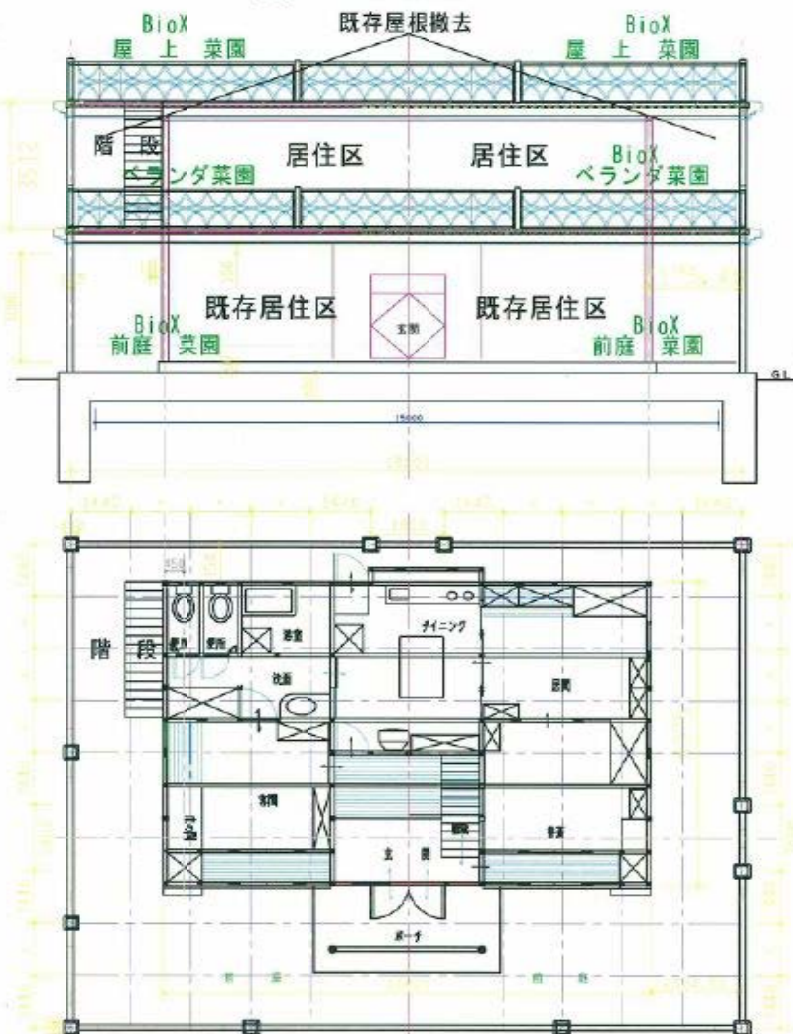
温暖化破壊も貧困格差を伴う文明破壊も70%もの資源損失を出す文明の構造に拠る人災である

2015年文科省CO2気象報告は人類生存に関わる重大事態です。世界の指導者達は一国の損得に固執し功罪を問う覇権闘争の時間は、既がない。一蓮托生で、少なくとも30年以内に一定の成果を生まねば最早後戻り出来ない最後のチャンスです。次世代を担う若者達は自分の人生と子や孫の為に今や他人事では無い。資源損失を止め収支を黒字化しなければ未来はない。文明蘇生の為に人々の理解を喚起し、唯一自己増殖するバイオ発電創エネルギーが解決する。

既存家屋 菜園増設リフォーム計画 (モデル)

屋上菜園 面積 215㎡ BioX 200台設置可
ベランダ菜園 面積 100㎡ BioX 100台設置可

315台BioX 135日/環境改善効果 気温冷却 887490kcal CO2吸収 1922kg O2放出 1418kg
収穫エネルギー4619160kcal



既存家屋も創エネルギー家屋に大変身

家庭菜園だから出来る薩摩芋の縦造り



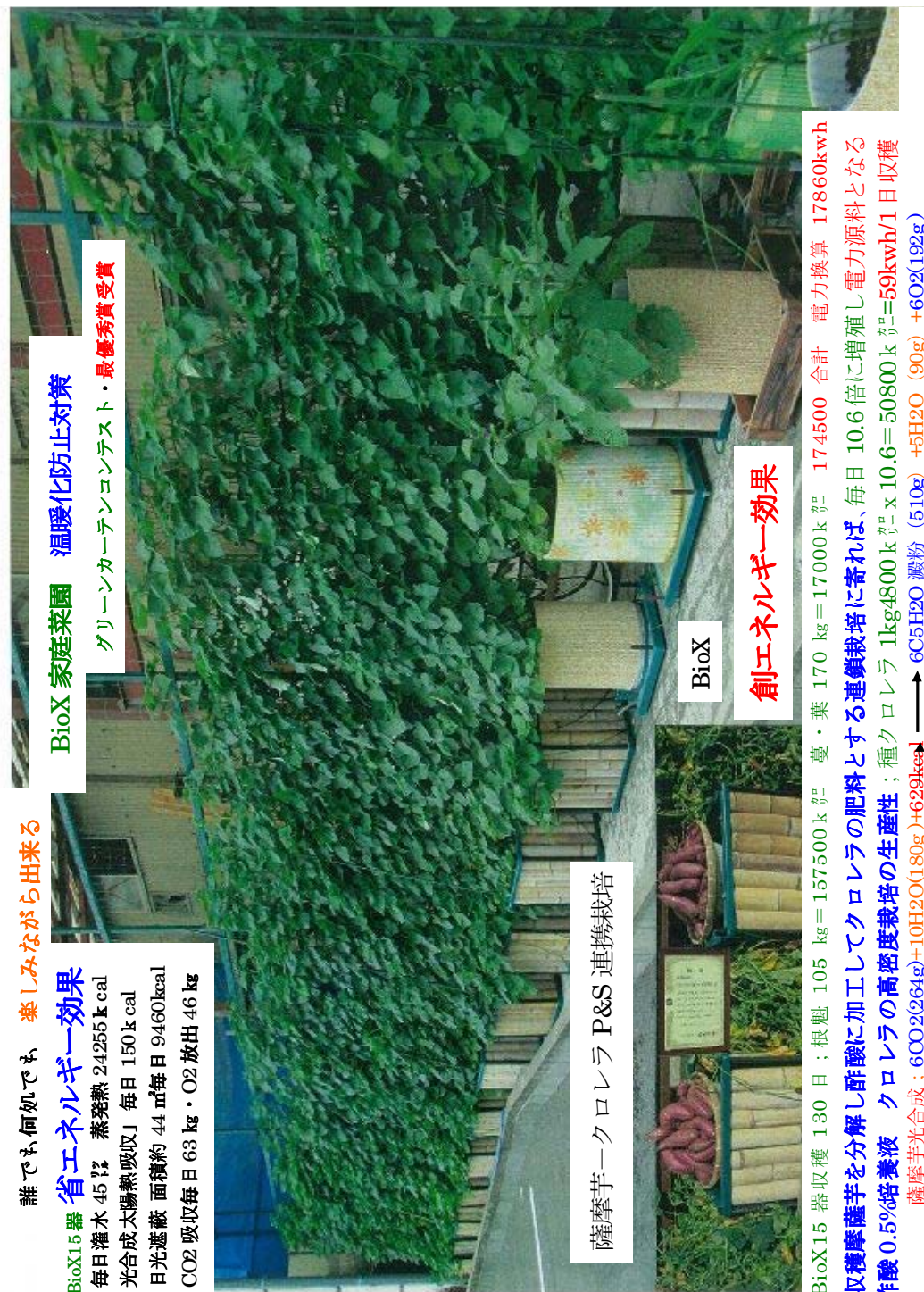
誰でも何処でも 楽しみながら出来る

BioX15 器 省エネルギー効果

毎日灌水 45 l 蒸発熱 24255 k cal
光合成太陽熱吸収 毎日 150 k cal
日光遮蔽面積約 44 m² 毎日 9460 k cal
CO₂ 吸収毎日 63 kg · O₂ 放出 46 kg

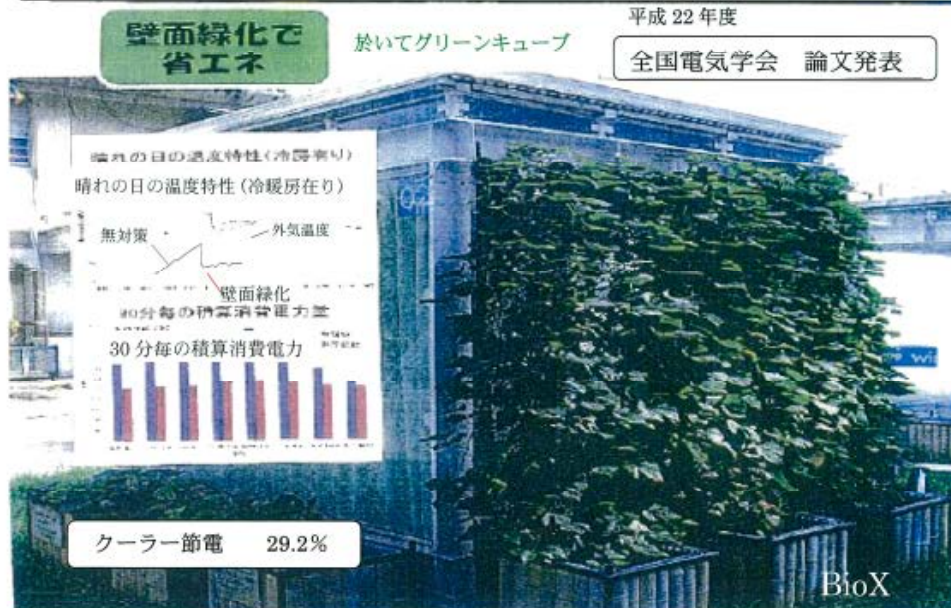
BioX 家庭菜園 温暖化防止対策

グリーンカーテンコンテスト・最優秀賞受賞



ネイチャー 農業は本来エネルギー産業・テクノロジー

見直された バイオマスの力

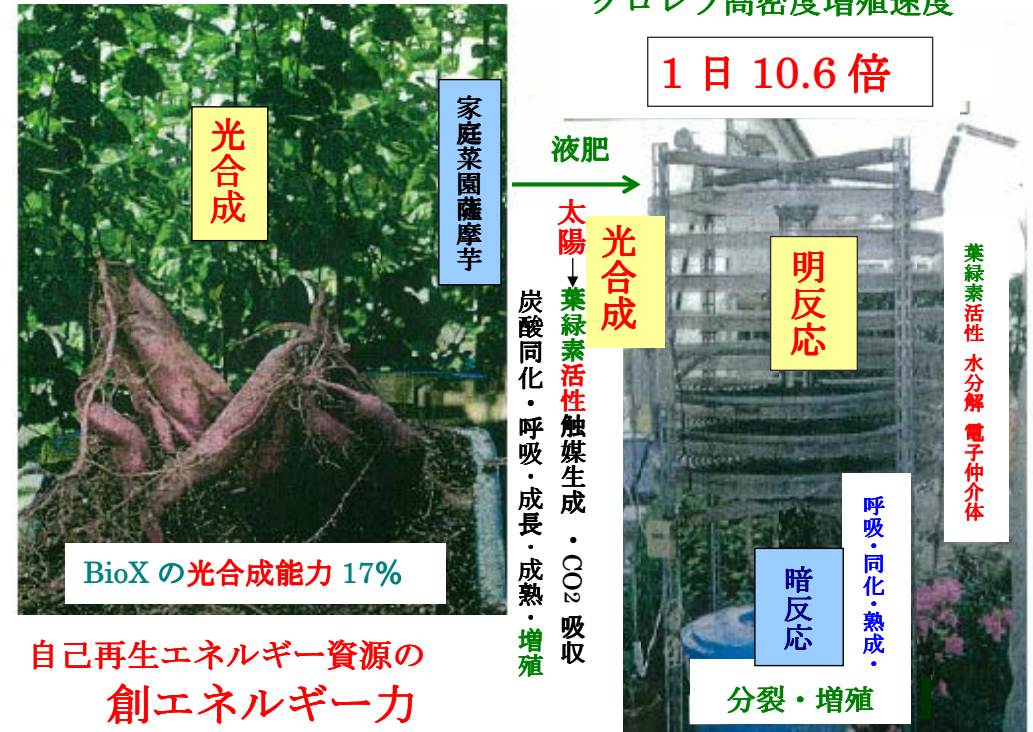


バイオ循環発電がエネルギー収支を黒字化する

バイオ発電システム 日米国際特許

一般作物中
エネルギー生産性第一位 「BioX-P」 → 特定栽培器 「BioX」 - S k

「薩摩芋」を液肥とする → 「クロレラ」の高密度栽培法
クロレラ高密度増殖速度



自己再生エネルギー資源の
創エネルギー力

家庭菜園の薩摩芋澱粉を液肥としクロレラの肥料にする P&S バイオマス高密度増殖法によると
1 kg 4800 k 分のクロレラが 24 時間で 10.6 倍に分裂し増殖する

毎日 (59kwh 相当の創エネルギー燃料) 自給発電
2002/12/27 福岡工業技術センター「クロレラバイオマス」ガス化試験データ (N2Free)

反応条件； 反応温度 850℃ 反応時間 10 分 N21L O20.0L H2O0.59/1 分 クロレラ仕込み 1.0011 g

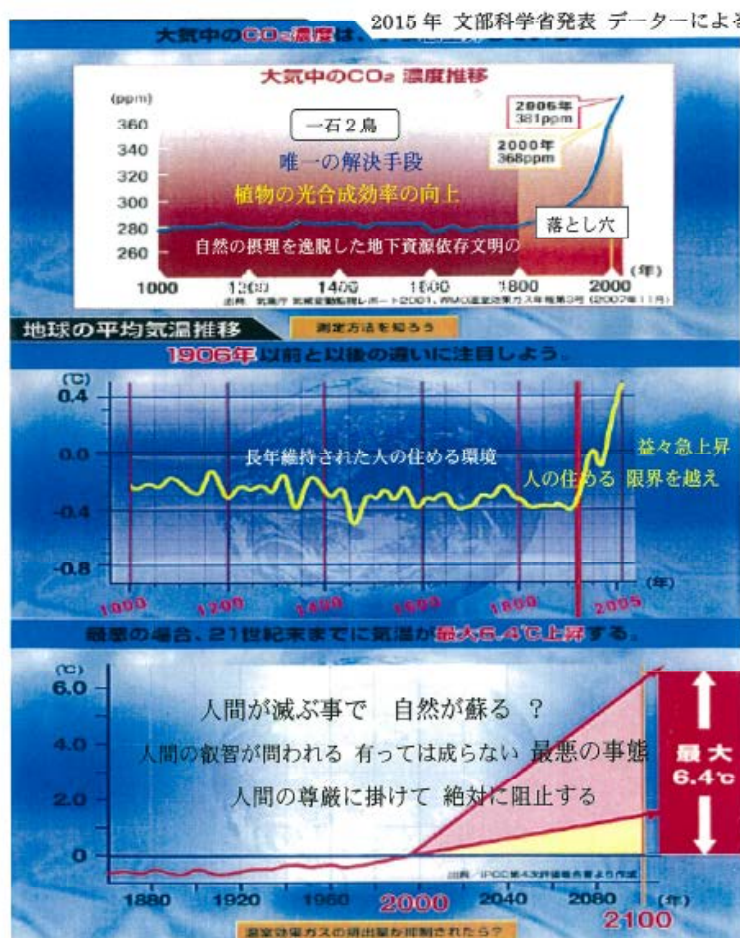
生成ガス	H2	CO	CH4	CO2
組成比 %	41.04	10.41	6.67	41.88
生成量 (mol)	8.106	2.057	1.317	8.272

クロレラ 1 kg の電力換算エネルギー採取量； H2 224mol X 58 kJ = 12992 kJ (15.1kwh 相当)

「BioX」家庭菜園同好会 「太陽と緑の友の会」 会員募集中

最早責任論争の時間は無い 直ちに解決すべき 超国家的 重大課題

我々の 自然収奪型文明が犯したエネルギー損失 67%赤字の大きな落とし穴
第一次産業革命以降 1 千年の安定した気象を壊した原因は明らかに人災である



自然は「エネルギー保存の法則」で運用している。自然循環しないエネルギーは蓄積され重大な破壊力となる。人類は生存の為に争奪を正当化し、人間の欲望は生産と消費を分断し 70%にも昇る膨大な浪費社会を造ってしまった。是が「地球温暖化と紛争社会」の根源である。人類は人道を歪せ世界は不安の極に在る世界の指導者は最早自国の利益を論じる時は無い。方法は唯一

地球資源を増殖し得る者は太陽と植物を於いて他に無い。我々は確執を超え総力を結集し、温暖化を止め、争奪不要の豊かな「創エネルギー社会」を構築し、子孫に繋げねばならない。

歴史は資源争奪の利権覇権に血塗られて来た、今こそ人間の尊厳に懸け散智を結集する時である。

直ちに解決すべき「超国家的課題」

※ 現代文明は 18 世紀の産業革命以来 300 年の長年に亘り、機械技術と地下資源に依存した文明で、目覚ましい発展を遂げて来た。その反面で、自己循環しない地下資源依存が、70%に迫る資源損失の膨大な浪費文明を造り出してしまった。其の為、保護主義が蔓延し、利権・覇権・争奪が定常化し、自然も文明も崩壊の寸前に在る。その原因が社会の血液である電力の -66%の赤字体質に起因する。

問題が余りにも大き過ぎて日常生活に危機感を直接感じない為か、一般的ニュースに成らず、政治的問題にもされて居ない。所が、平成九年度発表の「環境庁白書」に拠ると、技術先進国を誇る我が国産業の実態は 67%に登る膨大な資源損失と報じられて居る。世界の損失は更に悪いと推定される。

「自然の生産と消費は、表裏一体に密着し循環して無駄を生じない」人間は生産と消費の分離が、文明の進歩と錯誤し、自然の原理を逸脱し、消費を優先する経済論理に魅惑され決して自己循環しない機械力中心の、浪費社会を造り出してしまった。

その原因は、政治主導で行なわれた、膨大な資源損失を生む、重厚長大な産業社会構造である。

漸く、地下資源依存のエネルギー弊害からの脱却が叫ばれて居るが、個々の人々が自己責任の負えない体制では、利己主義の蔓延でモラルの低下が避け難い。是には、誰にでも出来て、自己責任の成果が評価され、生活革新の喜びを認識できるエネルギー循環技術と、社会制度を伴う政治的手法を伴はなければ「問題解決」迄は到達し難い。即ち、人間力の真価が問われる事態である

※ 次ページに掲げる表は西暦 2015 年文部科学省発表の温暖化情報にコメントを付したものである。

然し乍ら、今日の現代文明社会は「電力」なしでは成り立たない。

※※ 此の解決を可能とする手段が特許「生態バイオマス循環する発電技術」で在ります。

日本国・米国 特許；「バイオマスに拠る太陽熱と炭酸ガスの固定装置と同装置を備えた家屋」

※ 「生態バイオマス循環発電法」とは、天性的に繁殖力の旺盛な植物を選択し其の増殖特性を補助する手段を講じて栽培し、収穫した作物を燃料とし、其の発電系で発生する CO₂ を、再び光合成循環させ、大気に放出せず、発電系自体が自ら燃料を循環・生産・補給する発電法です。

※ 例えば、バクテリアの間には 30 分で二倍に増殖する高いエネルギー生産（光合成能力を持つ株種が存在し、将来最も有望なバイオマス資源で在ります。

此处では、生産性に実績のある「クロレラ」で説明致します。健康飲料で知られるクロレラは 30 億年の太古を生き抜き、今でも二十時間で 4 倍に増殖する超生命力の単細胞植物で在ります。

※ 乾燥クロレラは 1 kg 4800K ㏐（電力換算 5.5kwh）のエネルギーを有し、普通 20 時間で 4 倍に増殖する高エネルギー作物です。是に十分な炭素肥料を供給すると時間短縮が可能です。

※ 薩摩芋は 1kg 当り 1500 ㏐を有し、耕地 1 m²当りのエネルギー生産量が、お米の 1.7 倍の収穫で作物中、面積当たりの収穫率第一位の産物です。この薩摩芋を発酵液肥とし、クロレラ培養液に 5% 添加する事で 20 時間 4 倍の増殖を 9 時間に短縮し毎日 1 kg のクロレラが 10.6 倍（電力換算 58kh）に増殖します。是が当社で開発した薩摩芋&クロレラ連携「バイオ循環発電法」です。この技術の最も重要な目的は、炭酸ガスを繰り返し光合成させ大気に放出せず、温暖化をコントロール可能とし、無限に等し太陽熱を常時利用可能な作物として「地上に蓄積し」生態バイオ発電が創る自然と共棲し自律自給する創エネルギー電化社会が、争奪紛争無用の平和な世界を創出する事に在ります。

人間の欲望は、自己責任を前提とする限り、社会発展の原動力と成る。其の欲望を醸成し得る社会が優れた文明である。その存立要件は自然との共生の中にしか無い。ネイチャーテクノロジーの奥深さは正に神技の領域である。古今を問わず謙虚に是を学び取る事で自己実現が達成される。

三十億年を生き抜いたクロレラの旺盛な生命力の秘密



薩摩芋発酵液肥で高速高密度栽培
クロレラ栽培初期実験塔

地球創成期の暗闇で生れたクロレラは、光に拠らず周りの有機質を摂取する、従属栄養で、生活していたと考えられる。やがて強烈に差し込む太陽光から身を守る為、光エネルギーを有機物に換える光合成独立栄養の植物に進化したと思はれる。クロレラは此の明暗二つの能力を用い、充分な炭素成分存在下で効率よく、9時間で4倍に増殖する能力を有する。即ち1kg 4800k 日のクロレラは毎日10.6倍、電力換算59Kwhのエネルギーを生産する。

提供者名: (有) プラス化建・工法研究所

福岡県開放特許

2015-

タイトル

バイオ発電による太陽熱と炭酸ガス固定・循環装置とその家屋

技術分野	利用分野	情報メモ
☒ 電機・電子 ☐ 情報・通信 ☐ 有機材料 ☐ 金属材料 ☒ 食品・バイオ ☒ 土木・建築 ☒ 農林・畜産 ☒ その他(環境)	☐ 機械・加工 ☐ 化学・薬品 ☐ 無機材料 ☐ 輸送 ☒ 生活・文化 ☐ 繊維・紙 ☐ 医療・介護	・(分野)バイオ発電に拠る温暖化防止(製品) ・①バイオマス高速高密度栽培装置 ・②バイオマスの燃料ガス化装置 ・③バイオガスに拠る高効率発電装置 ・④同機能装備家屋の新築改築・建材
		詳細資料: ☒ 有 ☐ 無 サンプル: ☒ 有 ☐ 無

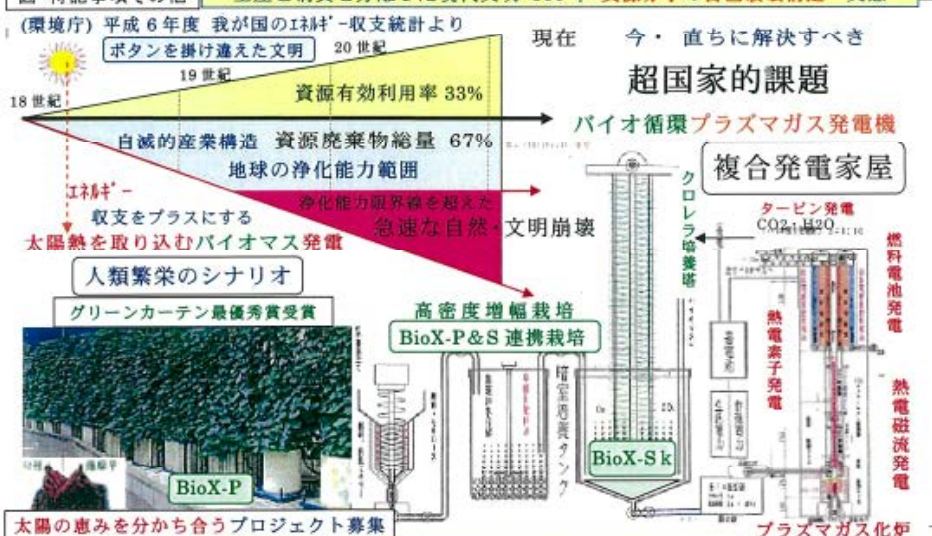
従来技術の課題・問題点 一次産業革命以来化石燃料と機械文明の発達は長足に進化した、H6年度の資源エネルギー収支は有効率33%で、【廃棄物67%の膨大な浪費社会】である。CO₂の現在の排出総量は自然の吸収能力の2倍を越え、経済の拡大と紛争による世界水準の浪費は、更に悪化傾向と推定され、自然と文明の崩壊は目前である。其の主原因は【自己循環のない電力技術】と【生産と消費を分離した人間社会の仕組み】である。自然の生産と消費は表裏一体ロスを生じ無い。自然に学び、人類の存亡を掛けた生活改善は「直ちに」解決すべき【超国家的課題】である (今手を打たねば間に合わない)

本発明の効果・特長 バイオマス栽培器「BioX」家庭菜園でCO₂と太陽熱で作物を自家生産し、Bio DynamoS(バイオ複合発電機)で電荷した燃料ガスとして、燃料電池を軸とした複合原理の発電機構で電力に変換し生活の場で自家発電する。其処で発生するCO₂は大気中に放出せず、再び作物に還元して太陽熱を資源化し、人の暮らしの中で循環する、エネルギー収支プラスの、自立した創エネルギー社会を創出する。

技術概要(構造・動作等) 本発明の詳細はホーム <http://www.psbj.jp> をご参照下さいませ。

- 1) バイオマス栽培器 ①「BioX-P」一般作物光合成栽培 ②「BioX-S」特定バイオマス光合成栽培
- 2) 「BioX-P」&「BioX-S」連携栽培法 (発酵液肥 同定栽培) 高速高密度バイオエネルギー栽培技術
- 3) バイオ・プラズマガス 複合発電機 原理の異なる複合発電原理、統合システム「BioDynamoS」

図・特記事項その他 生産と消費を分離した現代文明 300年 資源赤字の自己破壊構造 実態



主たる提供特許 早期実現が求められます。暖化防止共業事業体参加企業に関連特許を開放する

登録番号/公開番号: 米国出願番号: 13/061, 249
 登録査定番号: US2011148124
 発明の名称: バイオマスによる太陽熱と炭酸ガスの固定装置及び同固定装置を備えた家屋
 権利者/出願人: 有限会社 プラス化建・工法研究所
 特許第 5254563 発電装置 特許第 3680106 エネルギー変換システムを有する家屋

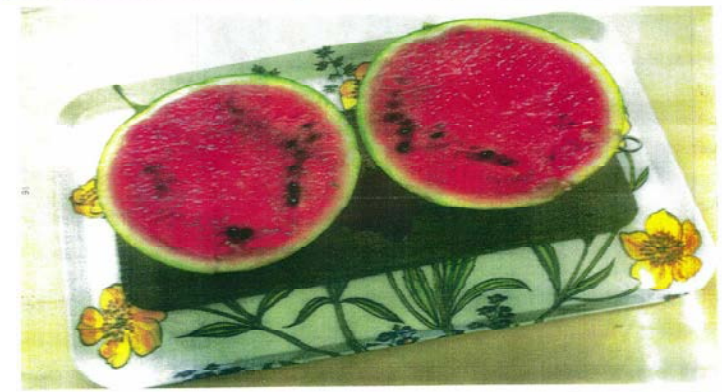
楽しく無ければ・革新では無い



「BioX」菜園 ・ 楽しい 健康家族

農業収穫性の向上 「人類繁栄のシナリオ」 地球資産の増加

誰でも何処で 楽しい「BioX」菜園



バイオセラピー 一家団欒 健康家族

光合成は
イオン現象

光合成率向上が

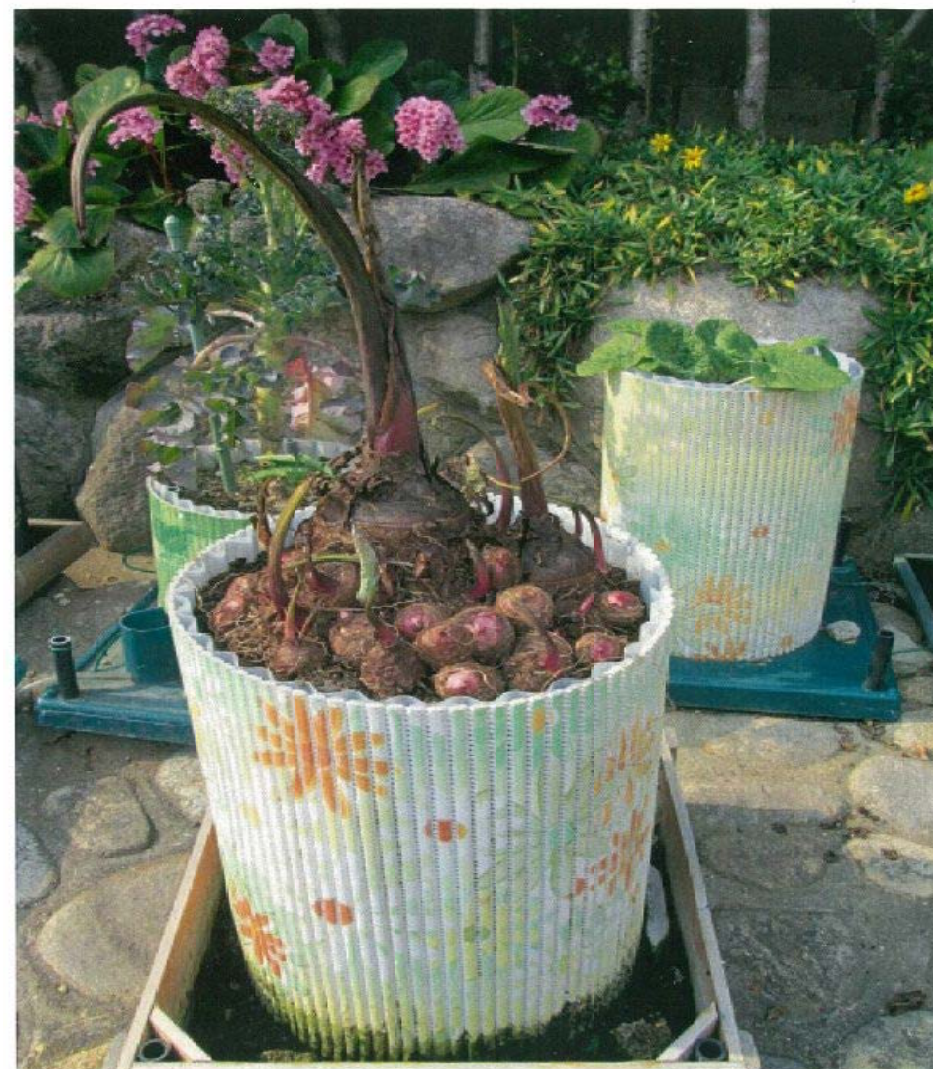
温暖化を阻止する

農業試験場 里芋栽培



農業生産性向上 地球資産の増加 「人類繁栄」

何処でも 出来る 楽しい「BioX」家庭菜園



バイオセラピー 一家団欒 健康家族



BioX 栽培風景

誰でも何処でも **楽しい** 家庭菜園「BioX」

庭先で山芋作り



開けてビックリ 玉手箱

掘りたて山芋

らくらく 収穫

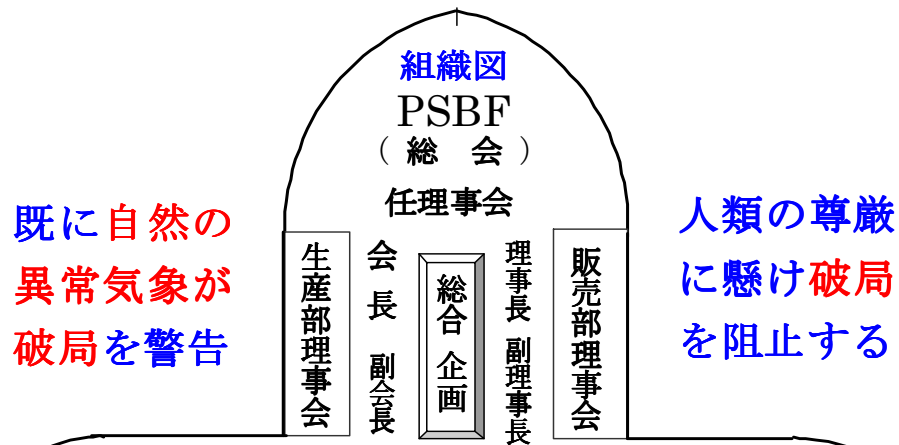
BioX 栽培風景

バイオマス創エネルギー発電・普及&革新運動

国の内外不問

PSBF Co Ltd

参加者募集中



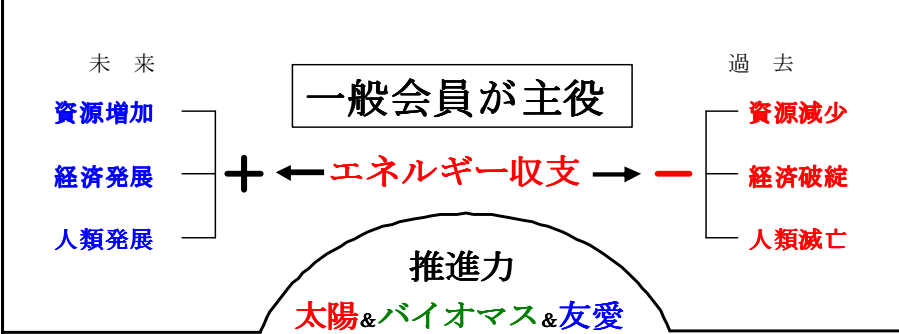
既に自然の異常気象が破局を警告

人類の尊厳に懸け破局を阻止する

異業種協業事業体会員

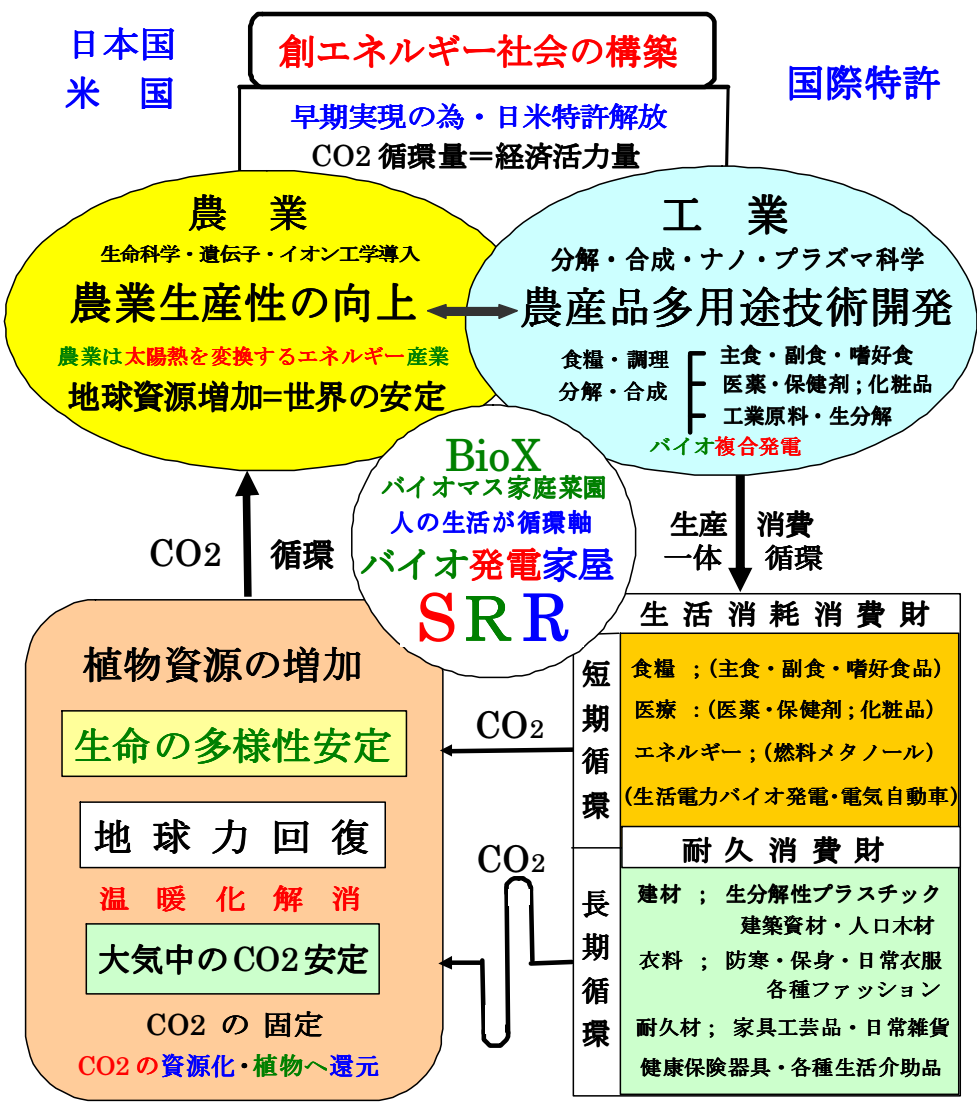
(生産 品質 担当理事) (研究開発 担当理事) (販売 広報 担当理事)

生産会員			研究開発会員		販売会員		
建築・設備	バイオ・園芸	発電・器機	基礎研究	応用研究	国内販売	海外販売	ネット販売
Bio 発電家屋 企画設計 同発電住宅建設	家庭園芸 育苗 育苗 栽培土壌 園芸用品機器 クロレラ高速 高密度増殖機 同 関連機器	バイオ燃料ガス 生成炉 セラミック分子 サイズ分取 フィルター 同燃料ガス複合 高効率発電機	ナノサイズ分子 フィルター機能 を有するセラ ミックの製法 バイオマスの有 機化学素材とし ての多用途 基礎研究 SolarBioエコ システム 経済 の基礎研究	バイオマスの中 期消耗品 (日 用雑貨) 長期 消耗品【建材 等】の用途開 発とリサイクル 研究 植物を起源とし る生分解プラス チックの実用 化を確立し完 全リサイクル 社会を実現する	一般バイオマス 栽培機「BioX」 発電用特定機器 クロレラ「BioXk」 バイオ発電機 「BioDynamoS」 Bio 発電家屋 上記関連機器 の国内発売	一般バイオマス 栽培機「BioX」 発電用特定機器 クロレラ「BioXk」 バイオ発電機 「BioDynamoS」 Bio 発電家屋 上記関連機器 の国外発売	一般バイオマス 栽培機「BioX」 発電用特定機器 クロレラ「BioXk」 バイオ発電機 「BioDynamoS」 Bio 発電家屋 上記関連機器 の国内外発売



関連技術技術協業事業体募集中

農と工の融合でCO2を循環する バイオ発電電化家屋が・太陽エネルギーを増殖する



自然と共存する 創エネルギー 革新社会
暮らしの中でCO2を循環する・Solar Recycle Residence

「事業推進基盤」 関連技術異業種協業事業体「PSBF Co Ltd」 発起人会 募集

1. エネルギー収支をプラスに転換するバイオマスエネルギー発電技術
エネルギーの自産・自消で循環する、分散形・創エネルギー 社会 を実現します。

我々の文明は 18 世紀、化石燃料に拠る産業革命以来、大量資源消費時代を迎えました。所が、平成 6 年の産業統計に拠れば、資源有効利用率は、僅か 33% で、67% の膨大な産業廃棄物を排出する、恐るべき浪費社会と成っています。其の資源赤字が、既に 300 年を超え拡大しつつ、CO₂ を始め大量の有害物質を排出して自然も文明も破壊し続けて居る結果が、今日の実態で在ります。

この資源赤字の本質は、競争を原理とする資本の論理が、人々の暮らしの場から「生産と消費」を分断し生産の喜びを金銭欲にすり替え、消費を美德とする経済論理のエゴと大量資源浪費社会を生み出した結果です。続発する破壊的異常現象は、自然の許容能力を遥かに超えた事を示して居ます。世界の悲惨な紛争は全て地球資源減少に起因します。資源争奪は死活を掛け止めどなく激化します。

我々の文明は、幾つもの悲惨な体験を経て様々な利便性を手に入れました。その利便の裏側は自然と多くの人々の犠牲の上に成り立って居ます。今日の試練は過去と異なり、貧者も富者も利害を超えて対処し無ければ一連托生の自滅へと向かいます。資本主義は価値を共有し、富の分配を公正に行う為に生み出した、人類最良の知恵です。然るに本来人々に貢献すべき資本主義が人々の公正を奪い踏みしめる「資本力主義」に変質して居ます。其の原因は、巨大資本に依存しないと成り立たない、然も決して、自力循環しない地下資源依存のエネルギー収支赤字の産業構造です。是は、我々社会の血液であるエネルギー産業が、最初から白血病に侵されて居たに等しい状態です。

今手を打たねば、数十年を待たず、自然も・人類の文明も崩壊します。

2. 本事業が目指す究極の目標は「エネルギー生産機能を有する家屋」での生活革新です。

古来より家屋は外界の脅威より身を守る砦で有ると共に、生活を創造する生産と消費の場であった。其処には家長を中心に生活共同体としての固い絆と節約の必然性があり、家族の助け合い、役割分担、長幼の序があり、モラルの原点を成していた。この統率と自律性を持つ家族の集団が、村里を作り、町を造り、安全共同体の国家社会を形成した。今日のモラル低下は、この家族崩壊に起因する処大です。今日社会が此の俛で、経済活動を活発化すれば、自然破壊とモラル低下で文明崩壊を早める事必然です。

「エネルギー生産性を有する家屋」の生活革新は三つの特許手段で「マイナス収支を、プラス」にします。

- ① 「植物の光合成を高め太陽エネルギー有効利用率を高め蓄積手段を有する家屋」。(日米国際特許)
 - ② 「バイオマス高速増殖装置及び同装置を用いた発電装置」電力の自家発電手段 (日米国際特許)
 - ③ 「家庭菜園の暮らしの中で、植物と CO₂ を光合成させ、地球資源を増殖する家屋」(日米国際特許)
- ※ 機械技術で避けられない熱力学的損失を、植物の生命力が太陽熱を吸収補完してプラスにします。
※ エネルギー資源を家庭で自家生産し、生産の喜びがモラルを高め、自立自尊の文化を実現します。

3. 企業の果たすべき役割 (自然回帰と次世代に継承する企業理念)

- ① 自然はエネルギー保存の法則で循環している。消費は消滅ではなく新しいエネルギー形態への転換である。自然の生産と消費は連続して無駄がない。自然の原理に則した生活技術を確立する。
- ② 「経営は常に公正で利己的であってはならない」無限に拡大する経済の信用を、有限の金本位では担保出来ず、利己的社会を生む。植物が取り込む、無限の太陽エネルギー本位の価値体系を創出する。
- ③ 経営の醍醐味は「不可能への挑戦」を持続するプラス志向連鎖を職場に構築する、人間探求である。

幹事；プラス化建・工法研究所 福岡県筑紫郡那珂川町片縄東 1-26-5

Email plus@psbf.jp
FAX 092-952-3826

関連技術を有する異業種協業事業体・参加企業を募集します

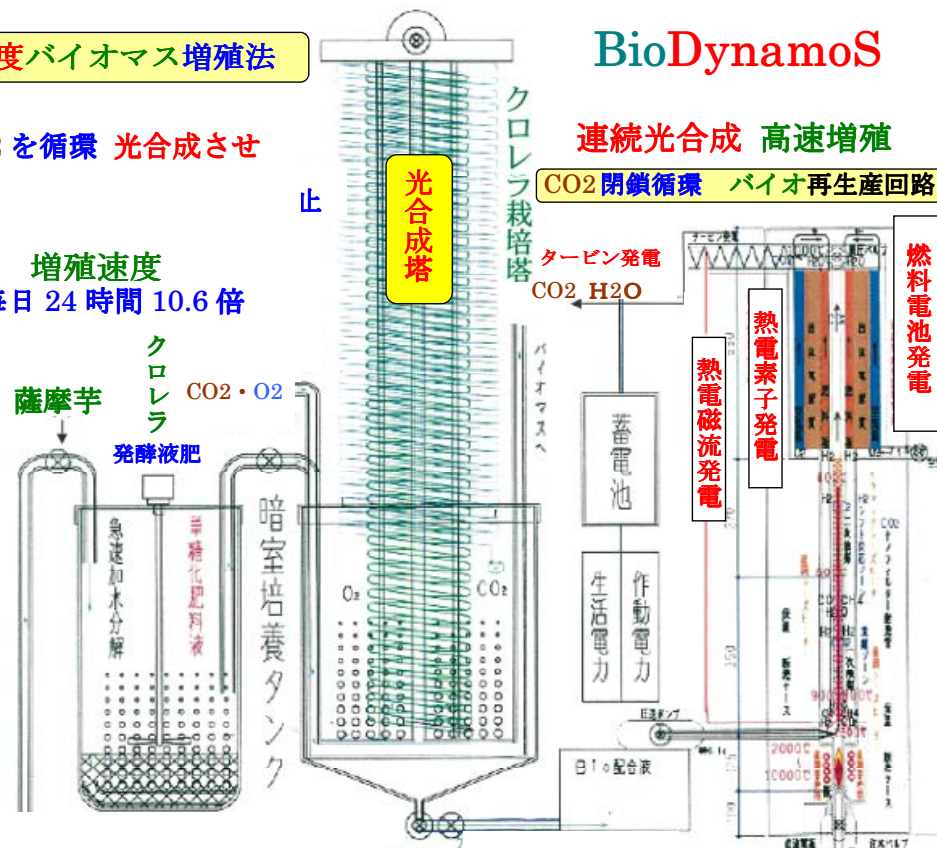
Bio ReCycle 複合発電システム・日米特許登録

人の暮らしが軸で太陽熱と CO₂ を循環する家屋

高密度バイオマス増殖法

CO₂ を循環 光合成させ

増殖速度
毎日 24 時間 10.6 倍



自然の原理を極め・自然の摂理に順応する、農と工の融合した「ネイチャーテクノロジーパラダイム」

温暖化を阻止する BioX&BioDynamoS 家庭菜園・同好会

太陽の恵みを共有する Plus Sun Bio Friends「太陽と緑と友の会」会員募集中

福岡県筑紫郡那珂川町片縄東 1 丁目 21 番地 5 号 <http://www.psbef.jp> E-mail plus@psbf.jp

(有) プラス化建・工法研究所 Tel 092-952-2827 Fax 092-952-3826

人類繁栄への道

人類の繁栄を永遠に確保する為には、限りなく拡大する人類活動のエネルギー源泉を確保しなければならぬ。今日の繁栄を築いて来た地下資源は有限で、限りなく拡大する人類活動を担保する能力を既に失って居ます。新しい地下資源を求めて、覇権主義が横行しているが、一時の時間稼ぎに過ぎず、地下資源依存は、温暖化を加速し、資本力依存の弊害が覇権を助長し、本質の解決に成らず破綻を早めるのみです。

是を解決する手段は、「膨大な太陽エネルギー活用」を於いて他に有りません。

益々拡大する経済を担保するには有限の金本位では既に、限界であります。生物学にATPと呼ばれる物質が在ります。是は生命が太陽エネルギーを取り込み、生命活動組織の各所に太陽エネルギーを分配する運搬物質で、通貨に似た働きをしています。此の通貨は、計測評量する事が出来、その働き効果を数値化して表す事ができます。我社の「バイオマス発電系」の発電量を、CO₂の循環量で換算すれば、太陽エネルギーの有効利用量を数値化出来ます。是を経済通貨基準に用うれば、太陽を保証人とした太陽本位経済システムが運用可能と成ります。

最新の学説による植物の光合成能力は太陽入射熱の33%可能と言われています。然るに世界の平均値は僅か3~5%で95%も放失しています。平成20年九州工業大学電気学科10号棟屋上で実施した当社栽培器「BioX」4基1㎡の薩摩芋栽培実験で28kg(49Kwh)相当のエネルギー収穫を得た。是は田畑栽培収量の9倍を超えて居ます。先述したクロレラはkg4800kWhを有する高エネルギー植物です。薩摩芋澱粉を肥料に、連携栽培すれば毎日此のクロレラの10倍の創エネルギーを得ます。

地球創成期の噴煙とCO₂の暗黒の中で生まれた原生生命クロレラは、先天的には光に抛らず、従属栄養で生息していた。やがて燦爛と差し込む太陽光の命を脅かす脅威に対応し、「クロレラ」は単細胞生物の利点を生かし、水中に住みCO₂を取り込み太陽光に挑戦して光合成を覚え植物に進化したと考えられる。この両能力を巧みに使い分け、光の中でも暗闇でも旺盛に繁殖する、生命力を身に着け、30億年を生き抜いた。「BioX-SK」は此の二つの能力を引きだし「生産性」を高める為に考案したクロレラ専用栽培器です。薩摩芋は、お米の1.7倍もエネルギー生産の高い作物です。「BioX-P」で育てた薩摩芋澱粉を酢酸菌で発酵させると、上質の酢に成ります。酢酸はクロレラの生長に欠かせない炭素成分を多量に含み、是を肥料にすれば、自然の増殖では20時間に4倍の増殖速度が、多量の炭素の供給で「9時間に短縮」され、24時間「10.6倍」の速さで増殖します。乾燥クロレラ1kgは4800kWhの熱量を持ち、毎日電力換算59Kwhの発電燃料の収穫を得ます。クロレラ発電に抛れば家庭電力を全て賄った上CO₂を循環再生し自ら電力資源を増殖します。

重要事項

今日までの、地下資源に依存した電力産業は、原料の調達・発電・配電に膨大な設備とプロセスを要し、巨大な資本力なしでは成り立ちません。然し、現代は「軽薄短小が高効率の量子力学の時代」であります。過去の重厚長大の産業構造は非効率で立ち遅れで在ります。其の電力を使う産業界と社会全体は必然的に感電し膨大な資源浪費社会と化して居ます。然し過去の功罪を問うものでは無く、現状の打開策の提案で在ります。

温暖化は既に限界に来て居り際限なく続く覇権・戦争・貧困も直ちに解決すべき「超国家的課題」で在ります。我々は自然の「互恵関係」の摂理に立ち返り、自然に順応した技術を確立する事でのみ、是の解決が可能です。

世界の全ての家庭の電力が（発電の毎に自然の摂理で増殖する）バイオマス発電システムを装備し、高度な電化生活を営みながら、植物資源や生活資源のみならず社会資産全体が増大し、太陽の恵みを共有する生活が可能と成ります。全ての人が自助力で豊かになれる社会には、覇権も戦争も恐喝も原子力も不要となります。

然しながら人間は生きる本能を磨き、何事にも屈しない正義の闘争心を持たねば成らない。闘争心はスポーツ・文芸・芸能・芸術で練磨し、友愛に満ちた平和な創造社会を創ろう。

子孫に伝える革新文明 ネイチャーテクノロジー パソエネ社会

「パソコン」の発達是个々の発信力が、社会を動かし得る情報化社会を生み出した

※ 次に来るべき革新は(パーソナルエネルギー)「パソエネ」時代です

優れた文明とは、生活の基盤を他に依存せず、知財共に自立した人々の共存社会です。科学の進歩が、個々の家庭菜園で高エネルギー作物を育て、電力を自給する時代を可能にします

※ 自然と調和した電力技術革新は、人類の繁栄持続の必須条件である

処が、平成6年環境庁白書に抛れば、現状の産業社会のエネルギー資源収支は有効利用僅か33%で廃棄損失67%の恐るべき資源赤字であります。これは現在のまゝの産業が進展すれば、地球資源は瞬間に枯渇し、自然も文明も破綻する事を意味しています。此の原因は、自己循環しない地下資源に依存し莫大な資金力を要する電力技術にあります

※ 此の儘の姿で電力需要が増えれば、資源戦争は激化し経済は破綻します

※ 更に恐るべき事は原子力発電が必要として容認されている事です。

持続可能な産業技術とは科学の原理「エネルギー保存の法則」に適合する技術です
「保存の法則」とは、循環しないエネルギーは全て蓄積し、破壊力と化す事です

※原子力発電の恐ろしさは単位エネルギーが、原油の200万倍と強大な事です
現在この強大なエネルギーをコントロールして循環させる技術は存在しません
此の発電の重大な欠陥は火力発電の火を原子に置き替えた物で変電効率は変わらず、投下資源の分母のみが200万倍となり、資源効率は壊滅的で、残るのは死の灰だけです。

是が原子力発電の本質です。是を解決する手段がBioX&BioDynamoSです

植物は生命誕生の太古より自己の生命を守る為、必死に環境に対応し自己革新を続け今日に至っています。その結果自己の生命を護るのみならず、多様に関わりあう共存共栄の絶妙な連鎖生命圏を造り出しました。之がネイチャーテクノロジーの極致です

- 1「BioX」は自然の多様共棲力を幫助し光合成効率を高める「植栽器」です
- 2「BioDynamoS」は植物を水素燃料にかえ、燃料電池を中心に原理の異なる4種の発電機構を同一系に統合した、循環型バイオマス発電システム
- 3「SRR」は、CO₂と太陽熱を光合成させ、暮らしの中で循環する家屋

人の暮らしが軸となり3つの機構が連動しCO₂を大気に出さず温暖化を阻止します。

皆の力で子孫に伝える革新文明を創りましょう。【太陽と緑の友の会】代表 副島康正

プラスの 経営理念

常にアイデンティティを問うこと。そこからビジネスは始まる。

経営の哲理

「経営の要諦は世のニーズに密着するにある」世の中のニーズとは、人々の様々な欲望が渦を巻き、淘汰されながら、時の流れとなって、現れるもので、決して自分を中心に存在するものではない。世のニーズは我々の回りに無限に存在するにもかかわらず、「自分中心の考え」ではその正体はつかめない。しかし「経営の要諦は、この変幻するニーズを先取する事にある」。したがって我々は、常に客観に立脚し、如何なる時も平常心を保ち、世の人々の様々な生き様を洞察し、その生き様と現象に学びそのよって来る由縁を喝破し、「是々非々の心眼」を養わねばなりません。

人は順風満帆の時、ややともすると己の力の成果の様に錯覚するが、人々の力によって生かされているだけである。我々は、成功におごる事もなく、逆境に減げる事もなく、常に、「是を是とし、非を非として」ただひたすらに「あるべき姿をあるべき姿として」根気よく勇気をもって、世に問うてゆかねばなりません。我々は常に客観的に自己を探求し、「真に己のあるべき姿」が見える様になる時、己のあるべき姿を辿って「世のあるべき姿」が見えるようになって来ます。その時、我々は「世のニーズ」を見通す事が出来るのです。我々は常に「自己本位」の考えを排して、客観的にあらゆる事象の意味を洞察して、「世のあるべき姿」に貢献し続けねばなりません。その成果として我々の経営は大きく開花し、無限の活路を展開するのであります。

経営の姿勢

- (1) 我々は常に自己を研鑽し
偏見を打破して
あらゆる変化に即応する
- (2) 我々は常に本質を直視し
客観に立脚して
判断をあやまたない。
- (3) 我々は人類の視野に立ち
社会のあるべき姿を洞察する。
- (4) 我々は宇宙的視野に立ち
原理原則を実践する。
- (5) 我々は人々による
無限の可能性のある
人間集団を構築する。
- (6) 我々は常に市場を先見し
人々のニーズに貢献する
- (7) 我々はこの経営を
後世に引き継ぐため
人材を育成する

営業の方針

営業戦略の第一義は、「差別化」である事は古今を問いません。しからばこの「差別化」とは何であり、何によって実現されるのでしょうか。そもそもすべての人は、意識の強弱はあるが、他の人と自分を比較し、区別する事によって、自分の存在を認識するものであります。即ち「差別」とは、人間の自己実現の原動力であります。したがって「差別化戦略」は、生産業者や流通業者の営業の手段としてあるのではなく、消費者である人々の「自己実現」の手段として重要なものであります。即ち優れた商品とは、それを所有し、使用する事で精神的高揚を触発し、ほこらかな自己充実、即ち「アイデンティティ」をもたらすものでなければなりません。

さて、「デザイン」の語義は「^{イデア}印をする」に由来し、他と区別し、「差別化」する事を意味します。したがって、デザインの目的はその物を他の物より優れた物として差別する為、目的を分析して、形を工夫し、素材を吟味し、色や様式を定めて、その物体としての価値を遙かに越えた「内面的価値」を「一目で感じ取れる様に創出す」事であります。即ち、「優れたデザイン」は、ものの言はぬ物体に自己主張の命を与えて、あきらかに他と差別して、それを所有し使用する人の知性のシンボルとして、その人のライフスタイルを演出するものであります。

我々はその意味に於て、人々の居住空間を創造する建築業界に於て、優れたデザインと如何なるデザインをも可能とする、工法と工材を提供します。そして、様々な人々の個性あふれるライフスタイルの実現を支援し、人々の充実した「自己実現」の人生に貢献します。



(有)プラス化建・工法研究所 沿革

昭和 27 年 学生時代のスポーツマン実績を乞われ、長崎県立島原高等学校体育教師に就任、教職に専任する一方で、美術創作活動を志向していた。

昭和 30 年 一念発起する所あり上京し同郷の誼みで、長崎原爆平和記念像の製作者 彫刻家 北村西望先生の薫陶に接する機会を得た。同、記念像アトリエはジャンボ航空機の格納庫を凌ぎ、大規模な建築現場で、甚く感銘を受けた。是が建築造形の道を決意した原点である。

昭和 31 年 東京都池袋に於いてプラス化建研究所を開設し、創作活動を開始した。当時は、高度成長期の入り口で在ったが、建築業界は復興最優先で加飾のニーズは無く、美術造形力を生かしマネキン人形製作に関与した。

昭和 32 年 出入り商社、互楽商事(株)の勧めにより米国輸入の強化プラスチック技術をマネキン人形の製法に取り入れるべく、プラスチック化に取り組み、程なく技術をマスターする。

昭和 35 年 乞われて福岡某メーカーのプラスチック技術指導に出向し 3 年間で任務を終る。

昭和 38 年 再び独立志向に戻り、プラスチック人口木材を開発し、家具デザイン資材に道を開く。家具業界は建築に引きずられ最盛期を迎え、熾烈なデザイン競争に突入していた。

これを機に特定産地の優良家具メーカーに高級貴木様デザイン材を提案し、相当の成果を挙るに至っていた。

昭和 41 年 福岡県大川市の新春家具展示会に高級貴木様人口木材の デザイン取って手を軸に、加飾材一式を展示し高い評価をうける。伊藤忠系列の商社の目に留まり代理店契約を締結した。プラス化(株)を設立して生産体制を整え、全国各産地の主要メーカーに固有デザインを提供し更に信頼を高め、全国ネット販売網を構築した。

昭和 45 年 デザイン資材に窮乏していた家具業界は、急激な住宅産業の復興に呼応し最盛期にいたり当社の人口加飾木材は順調な伸びを見せたが、利己的世相の推移は甚く憂慮すべき事象であった。

昭和 61 年 生産は人の心を豊かにし、過度の消費は人の心を卑しくする。自然の生命は熾烈な生存競争の中で、生産と消費は恣意的利己でなく、大局的な共存共栄で調和し表裏一体で繁栄する。人間は生産と消費を分離し、恣意的利己に囚われ、自然の摂理を逸脱した収奪型文明を造り出た。人の暮らし方の必然が文明を作る。「生産性を有する家屋」の暮らしの必然性を求め、プラス化建研究所を設立した。

平成 元年 ホテルニューオータニ大改修工事に当たって、補給基地として東京都文京区湯島に 株式会社プラス化建を設立し超硬質な人工大理石、偽蛇紋岩等メンテナンス不要の、高品位材の評価を受ける。

平成 2 年 社寺建築、各種建築の意匠工法を確立し、デズニージー他有名なプロゼクトに参画する。

平成 5 年 水に浮く繊維強化コンクリートを開発し、防音・断熱・不燃・不朽・鋸引き、釘打ち、木ねじ可の、コンクリート人口木材を、F.LRC と命名して、東京晴海国際見本市に出品する。

平成 6 年 佐賀県鳥栖市基山の五重の塔建設に「FLRC」採用「平成最美五重の塔」と称される。

平成 6 年 三洋電機、燃料電池発売の報道に接し、「足利研究所」を訪問、実用化間近を確信する。

平成 7 年 模索していた、家屋の持つべき生産性の必需は、生活電力エネルギーと確信し、「植物に抛る太陽エネルギー変換機能を有する家屋」を 特許出願し、平成 17 年 特許される。

平成 19 年 「バイオマス高速度、高密度栽培装置とそれをを用いた発電装置」特許出願する

平成 25 年 特許登録される。

平成 20 年 バイオマス高密度栽培栽培装置「BioX」商標登録申請 H25 年 特許登録される。

平成 22 年 「バイオマスに抛る太陽熱と CO2 の固定装置及び同装置を備えた家屋」

米国特許申請。 H27 年 特許登録される。

平成 29 年 同「太陽熱と CO2 固定装置」日本国特許庁 意見書提出。 同年、 特許登録される。

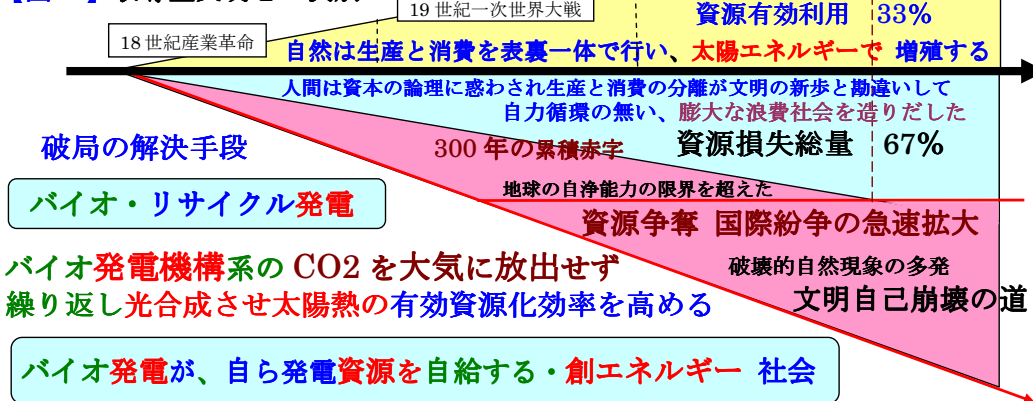
平成 29 年 上記、発電装置・九州工業大学及び福岡県工業技術センター協力の基 試作中

直ちに着手すべき
超国家的課題

自然の摂理に循環した資源増殖型発電

循環しないエネルギーは全て蓄積され自然と文明の破壊力となる
エネルギー保存の法則を逸脱した収奪型文明の破綻

【図-2】収奪型文明との決別



太陽熱の有効利用効率を高める・バイオリサイクル複合発電法

- 1) 発電効率；① 高圧植物体を無酸素環境で加熱し電離ガスとする事で一つの系内で原理の異なる複数の発電技術を統合した、高効率複合発電システムが可能となります。
- ② 此の発電の主役は生体植物である。然し付帯設備が機械器具で在る為エネルギー保存則の17%損失は免れない。是をCO2の連続循環「バイオ創エネルギー」が補いプラスと成る。
- 2) エネルギー生産例①クロレラ増殖熱量 1kg/5.6kWh・毎日10.6倍 59kWh
- 3) 太陽入射利用効率・実績 12%；(栽培120日、入射約600HKWh、収穫60kWh)

「電力」は文明の血液である。其の求められる必要要件は、自然の自己循環摂理に即し、資源収支は、常に、プラスで無ければならない。地球に降り注ぐ太陽エネルギーは 6.5×10^{24} KJと膨大である。

其の有効利用率を僅か3%向上すれば、世界の、年間エネルギー消費総量の原油換算130億トンに匹敵します。従来、太陽光の有効利用は3~5%程度と言われ理想値は10%とされて居ました。最新の学説では植物の光合成能力は33%可能と報告されて居ます。然し、農作物の収穫効率が5%を超えて向上した報告を未だ聞いていません。我が社は、平成20年、当社開発の植栽器「BioX」を用いた九州工業大学工学部の省&創エネルギー実験の論文発表成果を解析すると、27℃定格室温維持に29%のクーラーの省エネ節電効果と、10%を超える光合成効率の実績を達成しています。

バイオ発電に拠れば電力消費の増大に比例し地球資源を増殖する創エネルギー社会が実現出来ます。

技術革新の見通し

国際特許・光合成高効率植栽培器「BioX」と生態バイオ発電機「BioDynamoS」を装備した菜園家屋の暮らしに拠れば、其の系で発生するCO2を繰り返し光合成させ系内で循環させ、大気に放出せず大気濃度を削減しつつ「電力資源を自己増殖する」バイオ発電の電力消費が増大する程に、創エネルギー社会が充実します。個々の家屋の発電量と消費量を計測し太陽を原資とした「太陽熱利用貢献度褒賞制」を実施すれば、温暖化は制御できます。地球資源の増加は原発・争奪覇権・戦争無用の平和世界を齎します。

地球に入射する太陽熱は95%も捨てられて居る CO2を循環しバイオマス発電で太陽エネルギー利用効率を高めます



「ネイチャー テクノロジー」コンテスト参加作品

日刊工業新聞主催

(太陽の小判物語)

「太陽は小判の造幣局だった！」忘れていた当り前・未来の当り前 人類繁栄への道「太陽小判は増殖する」

「人類の危機を救う ライフスタイル革新」・「太陽が怒っている」今やらねば間に合わない

太陽が怒って言った「君達の使い捨て文明は目に余る」長い間 私の小判を95%も捨て 無駄働きさせた人々は答えた 御免なさい 自分達の文明は 太陽サンを 全て 使いきって居ると 信じていました 太陽は暴れ出して怒った御免なさいで済むか 身を削って太陽小判を贈り続けたのに5%しか使わず腹が立つ私を捨てて原発だ？ 馬鹿者 もう我慢ならぬ！ 天の岩戸に閉じ籠る … 二度と出て来ないぞ

人々は震え上がり懇願した「クワバラくわばら」目を覚まします 何卒 人類の火を消さないで下さい 太陽は微笑んで言った 地球の資産を増やせるのは植物だ！ すぐ目を覚ますなら 暫らく我慢しよう 人々は 胸をなでおろし 衆議を開いた「そうだ！ 太陽は身を削って 小判の雨 を降らして居たのだ」我々は拘ったつもりで 太陽の小判を 95%も 目の粗い文明の網で 拘い漏らして居たのだ

太陽さん御免なさい 人々は必死に 太陽小判 の漏れない 文明を探した。… 人人が大声で叫んだ あったぞ… ドレダ 「BioXだ 太陽の貯金箱だ」 中で太陽小判が 大判(作物)に 成長しているぞ！ 人々は太陽の小判薩摩芋を肥料にし太陽の大判クロレラを育て「電気を作り」太陽熱を循環する生活を始めた 太陽は喜んで末永く人々に小判を送る約束をしました。コワーイ原発モーイラナイ メダシ メダシ

現代文明の血液(電力)は白血病を病んでいる



(特許)「バイオ発電で太陽熱とCO2を循環させ温暖化を阻止する家屋」事業化 project 参加者募集

関連技術を有する「異業種共同事業体」結成で 早期実現を目指します

提案者事務局；プラス化建・工法研究所・福岡県筑紫郡那珂川町片縄東1-26-5 Tel 092-952-2827

世界のエネルギーは70%を超える廃棄資源損失を出し自己循環しない
循環しないエネルギーは蓄積され全て破壊力と化し、文明を破滅する

BioDynamoS & SolarRecycle Residenc

CO₂をバイオ発電家屋の閉鎖空間で連続光合成させ温暖化を阻止する

CO₂・太陽熱有効利用率向上

資源循環・創エネルギー社会

日本国特許

米国 特許



(有) プラス化建・工法研究所

Plus Sun Bio Friends・太陽エネルギー循環家屋「SRR」普及会

<http://www.psbfp.jp>

E-mailpulus@psbf.jp

福岡県筑紫郡那珂川町片縄東 1-26-5 Tel 092-952-2827 Fax 092-952-3826